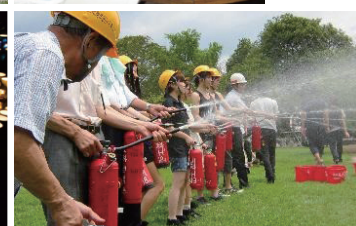
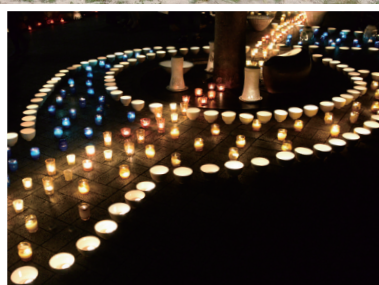


2014

京都橘大学 地域連携実績集

(1994年度～2014年度)



京都橘大学地域連携推進機構

地域連携センター

Center for Regional Collaboration

目次：京都橘大学地域連携実績集

I. はじめに		2
II. 京都橘大学における地域連携のあゆみ 略年表		4
III. 地域連携の主な実績集		
震災被災地ボランティア活動	京都橘大学×教職員×学生有志 東日本大震災被災地ボランティア	16
地域ボランティア学生団体	大学のボランティア団体をサポート ボランティア推進委員会	17
	かけがえない命を守るための研究と実践 救急救命研究会 -TURF-	18
	地域の人たちと楽しいイベントをつくる げん kids ★ 応援隊	20
	近隣の子供たちの下校の見守り 京都子ども守り隊 ～守るんジャー～	22
	日本語ボランティアグループ たちばな倶楽部	24
	山科スポーツ障害対策 project スポーツリハビリテーションサークル	25
地域課題研究と実践	清水焼を用いたあかりイベント 陶灯路 (とうとうろ)	26
	地域の人たちを対象にした子育て支援 パパとママのこころ育て広場	27
	大学祭に地域の子どもたちが参加する たちばなちびっこランド	28
	大学祭の恒例行事 たちばな健康相談	29
	高齢者の健康づくり 高齢者の健康促進活動	30
	守山市中心部の活性化をすすめるための実証分析 守山市民の購買行動に関する調査	32
	認知症高齢者の家族のために いちごカフェ	34
地域交流	地域の声を本学の教育改革に反映させる 京都橘大学山科 (醍醐) 地域教育懇話会	35
	山科をまなぶ 山科カレッジ	36
	地域との連携をいっそう発展・促進させるために 橘セッション	38
	山科消防署「文化財研修会」への参加協力 文化財防火訓練	40
	高齢化がすすむ市営団地の活性化と地域連携の拠点づくり 京都橘大学国際シェアルーム	42
地域におけるゼミ活動	現代ビジネス学部 木下達文ゼミの学生 オリジナルブランド!「香りっぷ」	43
	現代ビジネス学部 谷口知司ゼミの学生 「こだわり市場」を発刊	44
	現代ビジネス学部 河野良平ゼミの学生 駅ナカアートプロジェクト	46
補助金	守るんジャー・TURF・げん Kids ★ 応援隊・スポーツリハビリテーションサークル 「山科“きずな”支援事業」に選ばれる	47
	山科区における総合的な地域連携の展開 「臨地まちづくり」による地域活性化	48
	「大学間連携共同教育推進事業」採択事業 地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化	50
IV. 協定・連携	自治体等との連携協力に関する協定の締結	52
V. 2014年度の活動	2014年度学部・学科別活動実績 ①教育活動 ②研究活動 ③地域貢献/社会貢献活動	53
VI. 「つながる」 & 「News Letter」	バックナンバー紹介	60

京都橘大学
地域連携実績集
(1994年度～2014年度)



はじめに

① 「地域志向の大学」

本学は、学則第1条において、「教養高く情操豊かにして地域社会および国際社会に貢献しうる、社会に有為なる人材を育成する」ことを目的として定めています。また、「自立」「共生」「臨床の知」という教学理念を掲げ、特に「臨床の知」の理念には、地域での学びを「臨床の現場」に例え、社会と人々の幸福に貢献できる“実践的”な学問を身につけた人材の育成をめざす、という意味が込められている。このように、本学はこれまで、机上の学問に終わらずに、地域でのフィールドワークなど、「地域で学ぶ、地域から学ぶ」ことを重視し、地域志向の教育を全学で展開してきました。

本学は、1967年の創立以来、文学部単科の大学から、文化政策学部（2001年開設／その後2008年に現代ビジネス学部へ改組）、看護学部（2005年開設）、児童教育学科（2007年開設）、救急救命士養成課程（2008年開設）、健康科学部（2012年開設）と大学改革に取り組み、2014年度現在、5学部10学科を擁する総合大学となりました。その過程において、政策系の知識を備えた人材や、教員、保育士、救急救命士、看護師、保健師、理学療法士や臨床心理士など、時代のニーズを的確に捉え、地域との共生を重視し、地域社会に貢献できる人材養成を目指してきております。

② 「地域で学び、地域で“鍛える”」地域志向の教育

地域社会に貢献する人材には、幅広い視野と自ら考え行動する「主体性」、実践的応用力に裏打ちされた「課題解決能力」が必要です。本学では、広く社会に目を向け、地域社会と大学で学ぶ意義を早期から理解させるため、新入生全員が必修科目として学ぶ「教養入門」や「地域課題研究」などの科目を正規科目として開設し、地域や自治体との連携により、大学初年次の早期から、実社会に対する問題意識を醸成や課題解決能力の向上を図る教育に取り組んでいます。また、各学部学科の専門教育においても、各学科の特性に応じ、フィールドワークや実習など現場に触れ、地域で学ぶ機会を多く取り入れており、「地域で学び、地域で“鍛える”」教育による人材育成に取り組んでいます。

③ 地域の研究拠点と研究成果の還元／地域志向の研究活動

本学は、文学部単科大学の時に、洛東（山科醍醐）地域の歴史と文化を本格的に調査研究し、その成果を『洛東探訪』という書物にまとめた実績を持っています。その後、政策系の学部である文化政策学部の開設と同時に、「文化政策研究センター」（現：「地域連携センター」）を開設し、文字通り自治体や地域諸団体、市民・区民との共同による地域志向の総合的な研究活動を進めてきました。同センターが立ち上げた「山科文化開発プロジェクト」では、山科の文化資源の発掘・再評価による地域振興とまちづくりに関する共同研究を進め、今では恒例となった「やましな駅前陶灯路」などの地域振興事業に繋がっています。また、経済や商業面では「やましなY級グルメ」、「清水焼団地活性化事業」等にも取り組み、洛東（山科醍醐）地域で十分な実績を残しています。本学は、山科醍醐地域において唯一、地域を志向した大学であり、地域を対象とした研究とその成果の地域への還元は、本学の使命であると認識しています。このような認識から、今後もさらに、地域を志向した学際的な研究を総合的に展開していきます。

④ 社会貢献活動と人材育成

社会貢献活動では上記以外にも、現代ビジネス学部が地元経済団体や NPO との連携による諸活動を多様に展開してきましたが、最近では、看護学科による地域住民の健康増進活動（「たちばな健康相談」ほか）、心理学科の子育て支援活動（「パパとママのこころ育て広場」）など、保健、福祉分野での活動が旺盛に取り組み、洛東（山科醍醐）地域を中心に、確実に根を張っています。また、正課外でも、学生によるボランティア活動が活発に展開され、大学として強力な支援を行っています。児童教育学科の学生による、地域の学童を事故や犯罪から守る活動（「京都子ども守り隊～守るんジャー～」）、救急救命コース学生が心肺蘇生交流などを地域で行う（「救急救命研究会 -TURF-」）などのほか、現代ビジネス学部の学生によるタウン誌「やましな創 ing」の自主発行、京都市の「京都学生消防サポーター」制度への参加登録など優れた実績があります。

⑤ 地域志向を進める体制整備と「地域連携推進機構」

本学は、2000 年「文化政策研究センター」を設置し、以来「地域連携センター」、「看護異文化交流・社会連携推進センター」、「心理臨床センター」などいくつかの社会連携機関を開設してきました。それらは、各学部学科に特化した機関であったため、2013 年より、全学で取り組まれている地域や社会に関わる活動のすべてを統括し、全面的かつより効果的に展開することを目的として、学長を室長とする「地域連携推進室」を開設しました。これにより、全学をあげて地域志向の教育・研究・社会貢献活動を推進する体制を構築し、2014 年度からはこれをさらに「地域連携推進機構」（機構長＝学長）とし、文字通り、学長をトップとした、地域と教育・研究をつなぐ組織体制を確立しています。

⑥ 地域連携推進機構・地域連携センター

京都橘大学地域連携推進機構は、前述のとおり、全学で取り組まれている、教職員・学生の地域や社会に関わる活動全体を統括し、今後それらを全面的かつより効果的に展開することをために開設されましたが、その窓口となり、実際に大学と地域とを結んで、実質的な地域連携事業を推進するのが「地域連携センター」です。

地域連携センターは、これまでの成果を引き継ぎ、地域のニーズをよりリアルに把握し、地域志向の教育・研究を全面的に展開するため、活動を推進する役割を担っています。

■ 略年表

京都橘大学における地域連携のあゆみ

1994年	4月	「女性歴史文化研究所」が枚方市より「枚方の女性の生活と文化の歴史的研究」を受託。
1995年	1月	本学と総本山醍醐寺は、寄付講座の実施を中心とした学術交流協定を締結する。
	3月	総本山醍醐寺との学術交流協定により「醍醐末生流京都橘大学支部」を学内に開設し、学生・市民を対象に「いけばな講座」を開講。
1997年	4月	京都国立博物館と提携し、文学部学生による「館内解説ボランティア」をはじめめる。
	4月	本学図書館を一般市民へ開放するゲストユーザー制度を導入。
1998年	4月	総本山醍醐寺の寄付講座「日本の文化」を本学正規科目として開講。また、相互協力の一環として、同山所蔵の古文書調査がはじまる。
2000年	7月	文化政策公開シンポジウム「文化政策は社会を変えるー新しい時代の企業・市民・大学の役割」を開催。
	10月	京都橘女子大学文化政策研究センター主催「第1回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」を開催。(～2006年まで毎年)
2001年	3月	文化政策学部開設記念・文化政策学国際シンポジウム「文化による創造的地域づくり」を開催。
	4月	文化政策学部(現・現代ビジネス学部)を開設。
	4月	本学教員5名による「山科文化開発プロジェクト研究チーム」を結成。
	4月	ホテルプライトンシティ山科への「源氏物語講座」の企画提供がはじまる。(2005年度まで継続)
	4月	文化政策研究センターおよび、本学と社会とのネットワークづくりをすすめる「リエゾン・オフィス」開設。
	4月	公募された区民委員で構成される山科区の『やましなマップづくり委員会』が発足し、本学教員が協力。
	4月	文科政策公開シンポジウム「21世紀の豊かさを問うー文化政策がめざすものー」を開催。
	7月	滋賀県竜王町の「竜王町地方新時代まちづくり政策研究」を受託。
	7月	京都橘女子大学「ビジネスプラン・プレゼンテーション・コンテスト」を開催。
	10月	文化政策学部教員と学生による山科区を研究する「臨地まちづくり研究会(臨ま研)」発足。
	10月	文化政策学部教員による、たちばなアーツマネジメント研究会、ミュージアム研究会、都市建築デザイン研究会、スローフード研究会発足。
	10月	文化政策研究センター主催「第2回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」開催。
	10月	文化政策学部主催、知の交流の場、第1回インターゼミナール「まちづくりと大学」開催。
	11月	山科三条商店会から商店街活性化の支援を要請され、「臨ま研」が山科区のガイドブック『My やましな』を2万部制作。
	11月	「臨ま研」清水焼団地活性化の実地協力・同協同組合へのコンサルティングプロジェクトをスタート。
	12月	京都橘女子大学文化政策学部開設記念・文化政策学国際シンポジウム「文化による創造的地域づくり」を開催。
2002年	2月～	文化政策研究センター公開セミナー「関西女性アーティストファイル vol.1:タフ1」開催。※京都を中心に希望のアーティストを紹介(全5回開催)
	2月	京都橘史跡研究会が東山区の法観寺の調査を実施し、京都市の史跡調査に協力。
	4月	大阪府岸和田市文化財団の「岸和田市におけるこれからの文化行政の在り方と文化政策についての研究」を受託。
	4月	京都市教育委員会と、「学生ボランティア」協定を締結。
	4月	山科経済同友会との連携がスタート。
	4月	あずさ監査法人との教育・学術交流を提携。
	6月	文化政策研究センター公開セミナー「関西女性アーティストファイル vol.2:タフ2」開催。

2002年	6月	文化政策研究センター・女性歴史文化研究所・京都商工会議所女性会共催 第1回女性起業家育成セミナー「しごと創造塾」開催。(～2004年)
	6月	朝日監査法人と、教育提携と学術交流に関する覚書を交わす。
	8月	京都府リカレント教育推進協議会委託講座「文化政策担当者のためのスキルアップ講座」開催。
	9月	山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくナイト2002」へ、文化政策学部「臨ま研」学生が参画。
	10月	文化政策研究センター主催「第3回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」開催。
	11月	山科区の「山科区・歩くマップ(仮称)」製作のための企画・調査研究」受託。
	11月	文化政策学国際シンポジウム「文化による創造的社会的形成」を開催。
2003年	1月	京都商工会議所と、「提携講座」実施に関する協定を締結。
	2月	山科区主催「山科まちづくりシンポジウム」コーディネーターを本学教員が務める。
	2月	文化政策学部主催 第1回まちづくり教育のための高大連携会議が開催される。
	3月	文化政策学部「臨ま研」学生の「山科区三条商店会イラストマップ」が完成。2万部発行。
	3月	文化政策学部「臨ま研」学生が、山科区三条商店会研修旅行に参加し、商店会メンバーと交流。
	4月	山科区の「山科区・歩くマップ(仮称)」製作のための企画・調査研究」継続受託。
	4月	清水焼団地組合の「清水焼団地の活性化に関する研究」を受託。(～2006年3月)
	4月	文化政策学部「臨ま研」学生が、安朱小学校ふれあいクラブ「まち歩き隊」へ参画。
	4月	山科区随心院の第4回「小町市(こまちいち)」に、本学箏曲部が出演。(毎年出演)
	4月	文化政策研究センター・女性歴史文化研究所主催 女性のための「しごと創造塾」特別シンポジウムを開催。
	4月	京都市商業の未来像に関する調査研究(財団法人大学コンソーシアム京都への委託事業)を受託。
	6月～10月	文化政策研究センター公開セミナー「関西女性アーティストファイル vol.3:タフ3」開催。
	6月	文化政策研究センター・女性歴史文化研究所主催 第2回女性起業家育成セミナー「しごと創造塾」開催。
	6月	山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくサンデー2003」へ、文化政策学部学生が参画。
	6月	山科三条商店会主催イベント「夏ダ!ゆかたダ!三条会」へ、文化政策学部学生が参加。
	7月	文化政策学部「臨ま研」学生が第29回陶器まつりイベントにスタッフとして参加。
	7月	文化政策学部学生が「第1回店先ゼミナール」を開催。山科三条商店会の「平井豆腐店」で豆腐づくりを体験。
	7月	文化財学科学学生が山科区安朱稲荷山の名刹「毘沙門堂」にて、文化財防災研修会に参加。
	8月	文化政策プロフェッショナルセミナー「創造的な地域社会や企業を形成する文化資本の役割」開催。
	10月	山科区と山階小学校の依頼を受け、歴史学科の学生が児童のフィールドワークを指導。
	10月	文化政策学部学生、京都・山科清水焼団地第4回楽陶祭実行委員会へ参画。(～2004年10月開催まで1年間)
	10月	文化政策研究センター主催「第4回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」開催。
	11月	文化政策学国際シンポジウム「文化政策における環境と福祉」を開催。
	12月	文化政策研究センター主催「冠婚葬祭プロジェクト」講演会「まちのお葬式屋さんはいま…～お葬式の本質～」を開催。
	12月	文化政策研究センター主催「コラボレートする山科ーその可能性をさぐる」シンポジウムを開催。

2004年	1月	医療法人社団洛和会と看護職者養成における教育・研究包括協定を締結。
	3月	安朱小学校の依頼により、文化政策学部の学生が小学生を指導し、周辺地図『すごいぜ！発見まっぷ』を完成に導く。
	3月	織田直文・木下達文編『文化開発の可能性』（晃洋書房）で、山科区と京都橘大学の地域連携の3年間を紹介。
	4月	本学学生有志、地域在住外国人のための日本語教育学生ボランティアの組織「たちばな倶楽部」を立ち上げる。
	4月	本学女性歴史文化研究所と、京都府立高等学校地理歴史科・公民科研究会との連携による研究会を発足。
	4月	山科区委託事業として、山科区内を歩く8コースを紹介した『やましなホップ・ステップ・マップ』完成。
	5月	文化政策研究センター公開セミナー「関西女性アーティストファイル vol.4：タフ4」開催。
	6月	協同組合京都府中小企業診断士会と提携講座実施に関する協定を締結し、寄付講座を受ける。(科目：キャリア開発講座Ⅰ)
	6月	清水焼団地協同組合の委託研究「清水焼団地の活性化に関する研究」を受託。
	6月	文化政策研究センター・女性歴史文化研究所主催 第3回女性起業家育成セミナー「しごと創造塾」開催。
	7月	文化政策研究センター・女性歴史文化研究所主催 「しごと創造塾」ビジネスプランコンテストを実施。
	7月	文化政策学部「臨ま研」学生 第30回陶器まつりに参加。
	7月	専門店街ラクト・大丸やましな店合同来場者調査による顧客分析と研究を山科区ラクトBテナント会より受託。
	8月	四宮地蔵盆に、山科三条商店会のアシスタントとして、文化政策学部学生が参加。
	9月	山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくフェスティバル2004」へ、文化政策学部学生が参画。
	9月	文化政策プロフェッショナルセミナー「創造性をめぐって－文化と経済の新しい関係へ」を開催。
	9月	洛東高校と高大連携 教育連携協定書に調印。(同校2、3年生が本学にて授業の受講や実習を行う。)
	9月	㈱トラベルニュース社と提携講座実施に関する協定を締結。キャリア教育での連携を始める。
	10月	文化政策学部学生、「京都・山科 清水焼団地第5回楽陶祭」実行委員会へ参画。(～2005年10月開催まで1年間)
	10月	文化政策研究センター主催「第5回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」開催。
	10月	文化政策学部主催、知の交流の場、第4回インターゼミナール「まるごとミュージアムなまちづくり」開催。
	11月	山科区の受託研究として、『写真で語る山科の今・昔プロジェクト』がスタート。
	11月	NPO法人日本ファッションアドバイザー協会と提携講座実施に関する協定を締結。(科目：キャリア開発講座Ⅰ)
	11月	京都市「大学地域連携モデル創造支援事業」第1号に京都橘女子大学と龍谷大学の2事業が認定される。
11月	文化政策学部学生、山科三条商店会の消費者アンケートを行う。	
12月	京都産学連携機構の分理融合・文系産学連携促進事業に、「京都演劇力活用ビジネスモデル研究会」が採択される。	
2005年	2月	㈱日本航空インターナショナルと提携講座実施に関する協定を締結。(科目：キャリア開発講座Ⅱ)
	2月	リエゾンオフィスが、京都信用金庫主催「京信産学公交流フォーラム」に参加し、産学公連携・社会貢献の取組を紹介。
	3月	京都橘女子大学と㈱黒壁は、提携講座実施に関する協定を締結。(科目：キャリア開発講座Ⅰ)
	3月	㈱赤ちゃん本舗と提携講座実施に関する協定を締結。(科目：キャリア開発講座Ⅰ)
	4月	大学名を京都橘大学に改称し、男女共学化。看護学部を開設。
	4月～	文化政策学部1回ゼミ生、『実験版！山科駅周辺商店街マップ』を制作。
	4月～	文化政策学部2回ゼミ生、やましなタウン誌『やましな游～ing vol.1』を製作。
	4月	企業や自治体との連携講座「キャリアデザイン入門」「キャリア開発講座」を開講する。
	5月	文化政策研究センター公開セミナー「関西女性アーティストファイル vol.5：タフ5」開催。(全5回最終回)
	6月	文化政策学部教員が、第1回こどもの文化フォーラムの実行委員長を務める。(2014年度第10回で終了)
	6月	オムロン(株)立石信雄氏を客員教授として招聘し、現代マネジメント学科特別講義「21世紀に求められる企業の役割－企業の社会的責任とは」を開催。

2005年	7月	文化政策学部「臨ま研」学生 第31回陶器まつりに参加。
	8月	平成17年度「現代GP」の地域活性化部門で、「『臨地まちづくり』による地域活性化の取組」が採択される。【現代GP】
	8月	文化政策プロフェッショナルセミナー「文化によるまちづくりの継承と発展」を湘南国際村センターで開催。
	10月	文化政策学部学生、「京都・山科 清水焼団地第6回楽陶祭」実行委員会へ参画。
	10月	文化政策学部学生のヒアリング調査による山科駅周辺の地図づくりがはじまる。【現代GP】
	10月	京都市男女共同参画講座・京都市ウィングスセミナー「起業入門講座」を開催。(京都市受託事業)
	10月	大学祭で、看護学部教員・学生有志による「たちばな健康相談・健康教室」を開催。
	10月	文化政策研究センター主催「第5回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」開催。(～2006年まで毎年)
	11月	第1回現代GPシンポジウム「地域振興と大学教育 産学連携によるまちの活性化」開催。【現代GP】
	11月	文化政策学部学生、地域団体が共同で開催するイベント「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」へ実施スタッフとして参画。【現代GP】
	11月	文化政策学部学生、「三条街道わくわくフェスティバル2005」への参画。
	12月	文化政策学部主催、知の交流の場、第5回インターゼミナール「ものづくりの匠み、まちづくりの愉しみ」開催。【現代GP】
	12月	文化政策研究センターの「『文化開発の可能性』-コラボレートする山科からの提案-」が「法政大学地域政策研究賞」の奨励賞受賞。
	2006年	3月
3月		山科駅周辺地図が完成し、KBS京都で、マップとタウン誌の魅力が報道される。【現代GP】
4月		知的障害者とのコラボ・めくるめく紙芝居プロジェクト「MEKメック」発足。
4月		文化政策学部ゼミ学生、改訂版!山科駅周辺商店街マップ制作スタート。【現代GP】
4月		学術教育交流協定提携により自治体職員の大学院受入がはじまる。(京都府・京都市・米原市など)
4月		LLP(有限責任事業組合)ビジネスサポート京都と連携協定を締結し、産学連携オフィスを学内に開設。
6月		第2回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。
6月		(株)京都市女性協会と包括協定を締結。
6月		京都橘大学学生自治会と京都子ども守り隊～守るんジャー～の隊員たちが、自ら点検した大宅地区の安全マップを作成。
7月		福井県小浜市と学術・教育交流協定を締結。
7月		文化政策学部ゼミ学生によるタウン誌『やましな遊～ing 夏きらら号』(編集・発行京都橘大学)を発行。【現代GP】
7月		清水焼団地の要請により、文化政策学部の学生が第32回陶器まつりイベントに参画。委託販売・橘ショップの開店。
9月		教職希望の学生が、東京都八王子市立植原中学校からの修学旅行生を対象に、京都の文化などをテーマに模擬授業。
9月		文化政策学部ゼミ学生によるタウン誌『やましな遊～ing 秋だんらん号』が完成し話題となる。【現代GP】
9月		地域団体が共同で開催するイベント「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」で、文化政策学部の学生が、データ化した山科の写真を展示。【現代GP】
10月		文化政策学部学生、京都・山科 清水焼団地第7回楽陶祭実行委員会へ参画。
10月		看護学部教員と学生有志による「たちばな健康相談・健康教室」を開催
10月		文化政策研究センター主催「第6回個性が輝くひと・まち・文化コンテスト」開催。(最終回)【現代GP】
11月		第2回現代GPシンポジウム「まち中再生フォーラム 人を活かせばまちは甦る」開催。商店会の店舗に分科会会場をつくる。【現代GP】
11月		文化政策学部学生、山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくフェスティバル2006」への参画。
12月		(株)大広と教育提携と学術交流に関する覚書を締結し、「広告とマスメディア」を開講。
12月		陶灯路(とうとうろ)プロジェクト-清水焼作品企画・楽陶祭への学生参画はじまる。【現代GP】

2007年	1月	京都産学公連携機構「分理融合・文系産学連携促進事業」に採択。臨床教育支援システム研究会を開催。
	3月	本学学生有志による、京都子ども守り隊～守るんジャー～が、京都市教育委員会から表彰される。
	3月	「写真集モノクロームヤマシナ」資料編（山科区発行）を企画制作。
	3月	滋賀県東近江市と文化政策関連事業推進に係る協力を締結。
	4月	文学部に児童教育学科を開設。
	4月	京都府教育委員会と相互に連携協力して研究協議する包括協定を締結。
	4月	京都を舞台にフィールドワークする選択科目「京都講座Ⅰ・Ⅱ」を開講する。
	4月	めくるめく紙芝居「MEK メック」が、『ハニヤマのハミューダ島物語』を東本願寺山科別院本堂で公演。（メセナ助成）
	6月	医療法人今井会足立病院と教育・研究協力包括協定を締結。
	6月	第3回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。
	7月	文化政策学部学生 清水焼団地第33回陶器まつりイベントに昨年より継続参画。
	10月	大学祭で、看護学部教員と学生有志による「たちばな健康相談・健康教室」、児童教育学科有志による「たちばなちびっこランド」を開催。
	10月	文化政策学部教員・学生、京都・山科清水焼団地第8回楽陶祭実行委員会へ参画。
	10月	文化政策学部教員・学生 清水焼団地展示場改装計画に参画し、清水焼団地の改装が実現する。
	2008年	11月
11月		文化政策学部学生、山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくフェスティバル 2007」への参画。
12月		第3回現代 GP シンポジウム「大学発臨地まちづくりの実践～地域で学び地域が活きる」を開催。【現代 GP】
1月		文化政策研究センター主催「地域活性化フォーラム」を開催し、地域再生について語りあう。
3月		文化政策学部ゼミ生による清水焼団地マップ入り冊子を5000部発行。
3月		文化政策学部「臨ま研」学生が、山科観光プロジェクト主催の「陶灯路 in 六本木ヒルズ」企画へ参画。
4月		現代ビジネス学部を開設（文化政策学部を名称変更）。
4月～		現代ビジネス学部ゼミ生が、清水焼陶器の試作品を6点デザイン化。
5月		現代ビジネス学部ゼミ生による第1回かえっこバザール in やましなを開催。※不要になったおもちゃの交換会
5月		清水焼団地協同組合の「清水焼団地の活性化に関する研究」を受託。
6月		第4回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。現代ビジネス学部ゼミ生、第2回かえっこバザールの開催。
7月		臨地まちづくり研究会の研究が、平成20年度「大学地域連携モデル創造支援事業」に認定される。
7月		第34回陶器まつりの企画および実施への参画。委託商品販売では「橘ショップ」を開店。
8月		現代ビジネス学部の教員が「山科魅力発見プロジェクト（山科区）」の座長に就任。
10月		山科駅再開発記念イベント！第1回やましな駅前陶灯路に参画。
10月	第6回学生祭典で、救急救命研究会：TURFが救急救命のデモンストレーション講習を実施。	
10月	第9回楽陶祭の企画・運営に参画。門川京都市長を囲む「おむすびミーティング」に参加し意見交換。	
10月	看護学部教員と学生による「たちばな健康相談・健康教室」を開催。	
10月	児童教育学科による「たちばなちびっこランド」を開催。	
11月	現代ビジネス学部学生、山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくフェスティバル 2008」への参画。	
11月	現代ビジネス学部ゼミ生、山科区のタウン誌の続編「集 ing 秋ぶらう号」を編集・発行。	
11月	「京都・山科 源氏物語千年紀事業～源氏物語のタベ in 勤修寺」で、清水焼団地と本学のコラボレーションによる「陶灯路」を実施。	

2008年	12月	大阪府三島救命救急センターと学術・教育交流協定書を締結。
	12月	財団法人大学コンソーシアム京都主催「第4回政策系大学・大学院研究交流大会」で、本学学生の発表が京都市長賞、優秀賞受賞。
2009年	3月	京都文化ベンチャーコンペティションで本学現代ビジネス学部の学生が団体・企業賞を受賞。
	3月	救急救命研究会：TURFが「平成21年度大学地域連携モデル創造支援事業」に採択される。
	3月	本学とHSBC証券会社東京支店が、教育学術提携に関する協定を締結し、寄付講座を受ける。
	4月	小浜市との学術・教育交流協定により、文化政策研究センターが「小浜市食のまちづくり外部評価」の受託研究を受ける。
	4月	現代ビジネス学部ゼミ学生 山科区のタウン誌の続編『やましな集 ing 春びらら号』を編集・発行。
	4月～	現代ビジネス学部ゼミ学生による京焼・清水焼マーケティングリサーチ・新商品の企画開発はじまる。
	4月～	現代ビジネス学部ゼミ学生、陶灯路用陶器の新開発で、試作品200個制作。
	6月	第5回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。現代ビジネス学部ゼミ生、第4回かえっこバザールの開催。
	7月	学内外研究者ほかの「山科盆地景観研究会」（3年計画）発足。
	7月	文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】」に採択される。
	7月	第1回七夕陶灯路を大学キャンパス内で開催する。
	9月	文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】」に「オリター制度」が採択される。
	9月	救急救命研究会：TURF、山科区大宅学区防災訓練で心肺蘇生法と応急手当の講習。
	10月	清水焼団地第10回「楽陶祭」に参加し、陶灯路用陶器を披露する。
	10月	実行委員長を本学教授が務め、第2回「やましな駅前陶灯路」に参画。
	10月	看護学部教員と学生による「たちばな健康相談・健康教室」を開催。
	10月	児童教育学科による「たちばなちびっこランド」を開催。
	11月	モリタホールディングスの受託研究「救急活動の現状調査および筋負担軽減機器の研究に関する研究」を受託。
	11月	「山科盆地景観研究会」発足第3回研究会を開催。
	11月	救急救命研究会：TURF、山科三条商店会主催イベント「三条街道わくわくフェスティバル」で、心肺蘇生法体験ブース開催。
11月	勤修寺で、清水団地と本学のコラボレーションによる「陶灯路」を実施。	
11月	都市環境デザインフォーラム「市民にとってのまちづくりと京都らしい街並み景観整備のありかた」開催。	
12月	現代ビジネス学部学生が「第2回店先ゼミナール」を開催。清水焼団地作家窯元にて作陶体験。	
2010年	2月	救急救命研究会：TURFの活動が平成22年度大学地域連携モデル創造支援事業に採択される。
	4月	人間発達学部を開設。
	4月	現代ビジネス学部ゼミ生、京焼・清水焼を題材としたマーケティングリサーチを実施。
	4月	JR西日本財団公募助成に救急救命研究会：TURFの活動が採択される。
	4月	「山科魅力展開プロジェクト」（3ヵ年継続事業）がスタートする。
	6月	第6回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。現代ビジネス学部ゼミ生、第6回かえっこバザールの開催。
	7月	救急救命研究会：TURFの活動が、平成22年度「学まちコラボ事業」に、採択される。
	7月	第2回七夕陶灯路を本学キャンパス内で開催。
	9月	現代ビジネス学部木下ゼミ「山科ぶどうタルト」プロジェクトをスタート。
	10月	救急救命研究会：TURF、山科区大宅学区防災訓練で、心肺蘇生・応急手当の指導。
10月	大学祭恒例の看護学部教員と学生による「たちばな健康相談・健康教室」、児童教育学科学生による「たちばなちびっこランド」を開催。	

2010年	10月	第3回やましな駅前陶灯路に参画。救護班を本学現代マネジメント学科救急救命コース教員と学生が務める。
	11月	大宅中学校チャレンジ体験プログラム開催。
	11月	勤修寺および隋心院の陶灯路に参画。
2011年	3月	現代ビジネス学部ゼミ学生、山科区のタウン誌の続編『やましな創 ing 第一号』を編集・発行。
	5月	救急救命研究会：TURF が、山科子ども祭りで、応急手当法講習会。
	6月	救急救命研究会：TURF が、音羽草田町西自治会で応急手当法講習会。
	6月	第7回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。現代ビジネス学部のゼミ生、第9回かえっこバザール in 山科の開催。
	6月	救急救命研究会：TURF、勤修小学校夏祭りで、救護活動。
	7月	「清水焼の郷まつり」における現代ビジネス学部学生による来場者調査を実施。
	7月	救急救命研究会：TURF、勤修おやじの会主催子供キャンプで、救護活動。
	7月	救急救命研究会：TURF、大宅小学校サマーフェスティバルで、救護活動。
	7月	本学学生・教職員による、第3回七夕陶灯路を開催。
	7月	救急救命研究会：TURF の活動が、平成23年度「学まちコラボ事業」に、採択される。
	8月	京都橘大学看護実践異文化国際研究センターの社会貢献事業として、「障がい児支援講座」を開催。(共催 京都市立東総合支援学校)
	10月	第4回「やましな駅前陶灯路」に参画する。
	10月	第37回大陶器市「清水焼の郷まつり」に学生参画。
	10月	大学祭恒例の看護学部教員と学生有志による「たちばな健康相談・健康教室」、児童教育学科有志による「たちばなちびっこランド」を開催。
	10月	山科区民生児童委員協議会老人福祉専門部会「秋の研修会」を本学で開催し、看護学部と地域の協働について紹介する。
	11月	地域連携への取組についての外部評価委員会の実施。
2012年	1月	滋賀医科大学と教育・研究に関する包括協定を締結。
	2月	山科区経済同友会主催学生交流イベント第8回山科夢舞台に、本学サークル・京炎そでふれ！部、和太鼓部が出演。
	月2回	本学看護学部教員と有志学生の「いちごカフェ」 老人保健施設いわやの里で毎月2回開催。
	3月	救急救命研究会：TURF、医療ボランティアとして「京都マラソン2012」をサポート。
	4月	健康科学部を開設。
	4月	文化政策研究センターを改組し、地域政策・社会連携推進センターを開設。
	4月	看護実践異文化国際研究センターを改組し、看護異文化交流・社会連携推進センターを開設。
	4月	京都の文化資源を発掘する授業、「文化資源論」を開講。
	5月	現代ビジネス学部のゼミ学生 「第11回かえっこバザール in やましな」を山科商店会の「こどもフェスタ2012」で開催。
	5月	救急救命研究会：TURF、「こどもフェスタ2012」で救護活動。
	6月	第8回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。本学吹奏楽部の出演。現代ビジネス学部ゼミ生、第12回かえっこバザールの開催。
	6月	救急救命研究会：TURF の活動が、「平成24年度 山科“きずな”支援事業」に採択される。
	6月	げん kids ★応援隊の活動が、「平成24年度 山科“きずな”支援事業」に採択される。
	6月	京都子ども守り隊〜守るんジャー〜の活動が、「平成24年度 山科“きずな”支援事業」採択される。
	6月	現代ビジネス学部の都市デザイン学科 地域連携授業として、選択科目「観光情報論」を開講。
	随時	現代ビジネス学部谷口ゼミ、ウェブサイト「京都こだわり市場」で店舗開拓ならびに情報を発信。
	6月	救急救命研究会：TURF が山科区勤修小学校キャンプの救護活動。

2012年	7月	都市環境デザイン学科講義「都市文化資源論」で、ご当地キャラクター資源調査の企画・実施・発表。
	7月	第4回七夕陶灯路を本学キャンパスで開催。
	7月	京都子ども守り隊〜守るんジャー〜が、「平成24年度京都府防犯まちづくり賞」を受賞。
	7月	文学部歴史学科・歴史遺産学科の学生が、隋心院「夏の文化財防火研修会」に参加。
	7月	京都橘大学と京都シネマが、特別鑑賞に関する協定を締結。
	7月	山科区の「大宅サマーフェスティバル」で、救急救命研究会：TURFが、救護活動。
	8月	看護異文化交流・社会連携推進センターの社会貢献事業として、学生対象の「障がい児支援講座」を開催。(共催 京都市立東総合支援学校)
	8月	都市環境デザイン学科 木下ゼミ学生が、山科区の洋菓子店ローヌと共同開発した「山科ぶどうタルト」が商品化される。
	8月	健康科学部心理学科教員有志が、6泊7日の福島山科親子キャンプを開催し、被災地の子どもと保護者を招待。
	8月	山科区の「大宅地蔵盆」で、救急救命研究会：TURFが、救護活動。
	8月	宇治災害ボランティアセンターの京都府南部豪雨被災地へのボランティア活動に、学生教職員が参加。
	9月	「第13回かえっこバザール in やましな」を山科区エコアクションNo.1宣言2012で開催。
	9月	京都リビングエフエムに、都市環境デザイン学科教員とゼミ生が出演し、「山科ぶどうタルト」プロジェクトについて語る。
	10月	「第5回やましな駅前陶灯路」を地域と連携して開催に参画。
	10月	地域力文化祭「第2回清水焼郷まつり」に参画。吹奏楽部と和太鼓部が、ミニコンサートに出演。
	10月	大学祭恒例、児童教育学科企画の「たちばなちびっこランド」を開催。
	10月	ボランティアに参加した学生・教職員による東日本大震災支援活動報告会を開催。
	11月	都市環境デザイン学科3回生後期 京都の新たなツーリズムコースを開発する「京都ツーリズム論」を講義。
	11月	第4回京都・やましな観光ウィークで、本学の吹奏楽部と箏曲部がミニコンサート。
	11月	山科区三条商店街「わくわくフェスティバル」に参画。救急救命研究会：TURFが、救急救命講習会開催。
11月	山科区大宅学区防災訓練で、救急救命研究会：TURFが、救急救命講習会を開催。	
12月	第8回政策系大学・大学院研究交流大会に参加し、研究報告を行う。	
12月	平成24年度京都市考古資料館京都橘大学・立命館大学合同企画展「京都考古学探検隊 一開け！過去の扉」を開催。	
2013年	1月	京都橘大学看護異文化交流・社会連携推進センター主催 健康づくり体操「新しい年を元気に過ごそう！」を開催
	1月	都市環境デザイン学科ゼミ学生 「香り立つ京都橘フレグランス研究開発プロジェクト」スタート。
	1月	京都第二赤十字病院と、看護師養成や教育に関する包括協定を締結。
	2月	山科経済同友会主催「第9回山科夢舞台」に、本学の京炎そでふれ！部と和太鼓部が出演。めくるめく紙芝居公演。
	2月	京都建築学生之会主催「DIPLOMA × KYOTO'13」に、都市環境デザイン学科・建築インテリアコース学生8名が出展。
	2月	げん Kids ★ 応援隊、『京都新聞@キャンパス』で、子どもの遊びをレポート。
	3月	現代マネジメント学科救急救命コースの学生の自主練習の様子が朝日新聞「まなびば」で紹介される。
	3月	救急救命研究会：TURF、医療救護ボランティアとして「京都マラソン2013」をサポート。
	3月	現代ビジネス学部ゼミ学生 京都市交通局主催「地下鉄・駅ナカアートプロジェクト」に参加し、柳辻駅の通路に壁画を作成。
	3月	大学コンソーシアム京都主催「芸術系大学合同作品展 ArtsBar2013～京の創造」の運営協力として参画。
	3月	救急救命研究会：TURF、防災功労者として山科区の平成24年度定例区民表彰を受ける。
	月2回	本学看護学部教員と有志学生の「いちごカフェ」 老人保健施設いわやの里で毎月2回開催。
	4月	京都さくらよさこい実行委員会主催（京都府・京都市ほか共催）「第9回京都さくらよさこい」の舞台で、本学学生が龍神伝説の舞を披露。

2013年	5月	健康科学部理学療法学科リカレント講座「片麻痺患者に対するコアセラピー」を開催。
	5月	現代ビジネス学部ゼミ生 山科商店会主催「こどもフェスタ 2013」で「第14回かえっこバザール in やましな」を開催。
	6月	第9回こどもの文化フォーラム企画・実行に参画。現代ビジネス学部ゼミ生、「第15回かえっこバザール in やましな」を開催。
	6月	第9回こどもの文化フォーラムに京都橘大学吹奏楽部が出演。
	6月	山科区の母子支援施設や児童館で子供たちにダンスを教える本学のダンスサークル JUST DO IT の子供ダンス教室が京都新聞 WEB で紹介される。
	6月	救急救命研究会：TURF の活動が「平成 25 年度 山科“きずな”支援事業」に継続採択。
	6月	げん kids ★ 応援隊の活動が「平成 25 年度 山科“きずな”支援事業」に継続採択。
	6月	京都子ども守り隊～守るんジャーの活動が「平成 25 年度 山科“きずな”支援事業」に継続採択。
	6月	文学部歴史学科・歴史遺産学科の学生が、勸修寺「夏の文化財防火研修会」に参加。
	7月	心理臨床センター開設。
	7月	第1回山科区介護予防サポーター研修会「介護予防サポーターに必要な知識と技術」を本学にて開催。
	7月	地域政策・社会連携推進センター主催「第1回橘セッション」を開催。
	7月	心理臨床センター主催、「パパとママのこころ育て広場」を月に1回のペースで開催。
	7月	第5回七夕陶灯路を本学キャンパスで開催。
	7月	観修寺で開催された文化財防火運動合同消防訓練に文学部歴史学科・歴史遺産学科の学生が参加。
	8月	看護異文化交流・社会連携推進センターの社会貢献事業として、学生対象の「障がい児支援講座」を開催。(共催 京都市立東総合支援学校)
	8月	岩手県での東日本大震災復興支援ボランティア活動に本学学生と教職員、あわせて40名が参加。
	8月	本学サークル、京災そでふれ！部 Tacchi が、「おの恋おどり」で兵庫県小野市のエクラ大賞を受賞。
	9月	現代ビジネス学部ゼミ生「第16回かえっこバザール in やましな」を山科区エコアクション No.1 宣言 2013 にて開催。
	9月	京都市山科区役所と地域連携・協力に関する協定を締結し、地域連携推進室を設置。
	10月	スポーツリハビリテーションサークル(理学療法学科教員指導)の活動が、「平成 25 年度山科“きずな”支援事業」の二次募集に採択される。
	10月	本学教職員・学生が「第6回やましな駅前陶灯路」開催に参画。救護責任者は、本学教員。
	10月	京都中央信用金庫主催「中信ビジネスフェア」にブース出展。地域連携・産学連携への積極的な本学の取組を紹介。
	10月	東日本大震災復興支援ボランティア活動報告会を実施。
	10月	大学祭で、看護学部教員と学生による「たちばな健康相談」および、児童教育学科有志による「たちばなちびっこランド」を開催。
	11月	山科区大宅女性会の協力を得て、看護学科「お助けたいへのバイタルサイン測定」の講座が開かれる。
11月	現代ビジネス学部ゼミ生とツーリズム研究会が、小さな情報冊子「京都のこだわり、見つけました」を発行。HP「こだわり市場」も公開中。	
11月	「京都・やましな観光ウィーク」実行委員会主催 第5回京都・やましな観光ウィークで、本学箏曲部と吹奏楽部がミニコンサート出演。	
11月	NPO 法人山科醍醐こどものひろば・わんぱくクラブの「わんぱく運動会」を本学で開催。	
12月	第9回京都から発信する政策系研究交流大会で、現代ビジネス学部の学生が京都府知事賞と優秀賞をW受賞。	
2014年	1月	地域政策・社会連携推進センター主催「第2回橘セッション」を開催。
	1月	看護異文化交流・社会連携推進センター主催 健康づくり体操「新しい年を元気に過ごそう！パート2」を開催。
	2月	「京あるき in 東京 2014」で本学歴史遺産学科教員が講演。
	2月	醍醐いきいき市民センターで開催の「だいきママカフェ」で、本学心理学教員が本学学生とともに託児ボランティアを行う。
	2月	現代ビジネス学部の木下ゼミ生が取り組んだ「香りっぶ」が京都新聞ウェブで紹介される。(2/1)

2014年	2月	学生23名と学生支援課職員が、3泊4日の宮城県東松島市へ震災ボランティア活動に出発。(2/2)
	2月	救急救命コースと看護学科が医療救護ボランティアとして「京都マラソン2004」をサポート。(2/16)
	3月	3月14日(金)、吹奏楽部と学生2名が山科区民表彰を受ける。(3/14)
	3月	KYOTO駅ナカアートプロジェクトで、栂辻駅に卒業制作を発表。(3/27～5/31)
	3月	2013年度第1回「京都橘大学山科地域教育懇話会」を開催。(3/25)
	4月	京都橘大学地域連携推進機構発足。
	4月	「第9回京都さくらよさこい」の舞台上で、本学学生が龍神伝説の舞を披露。(4/28)
	5月	「ラ・フォル・ジュルネ びわ湖2014」(クラシック音楽の祭典)で、都市環境デザイン学科の学生が会場ボランティアとして活躍。(5/2～5/3)
	5月	心理臨床センター主催、「パパとママのこころ育て広場」第1回開催。(5/24)
	5月	山科区主催、山科について語りあう「やましなGOGOカフェ」に、げんKids★応援隊が参加。(5/24)
	5月	山科商店街主催、「こどもフェスタ2014」に、かるた同好会、京都子ども守り隊～守るんジャー～、げんKids★応援隊、救急救命研究会:TURFの4団体が参加。(5/25)
	6月	京都橘大学・救急救命研究会:TURF、げんKids★応援隊が、今年も「山科”きずな”支援事業」の継続事業に採択される。
	6月	第10回こどもの文化フォーラムで、現代ビジネス学部ゼミ生が、運営に参加。
	6月	「平成24年度大学間連携共同教育推進事業」採択事業・京都の地域資源の再評価とそれを応用したビジネスモデルの提案を行う。(6/29)
	7月	山科の伝統産業清水焼を活かした、あかりイベント「第6回七夕陶灯路」を本学キャンパスで開催。(7/4)
	7月	心理学部の学生が、滋賀県守山市で開催の『第3回まちゼミキッズ』に参加。(7/19)
	7月	山科区との共催により、山科の歴史、文化、産業等を学ぶ講座「第1回山科カレッジー琵琶と山科」を開催。(7/19)
	8月	山科区との共催により、山科の歴史、文化、産業等を学ぶ講座「第2回山科カレッジー清水焼団地の見学と湯呑の絵付け体験」を開催。(8/2)
	8月	山科こころの健康を考える会主催「山科こころのふれあい夏まつり」で看護学部学生がゲームコーナーを担当。(8/11)
	8月	現代ビジネス学部院生有志、山科区四ノ宮十禅寺・ミュージックサロンYOSHIKAWAにて「琵琶の音鑑賞会」を開催。(8/22)
	9月	理学療法学科が、健康促進活動として、市内65歳以上400名の体力・認知力調査を実施。
	9月	山科区エコアクションNo.1宣言 2014環境イベントで、京都橘大学生協の学生委員有志による、かえっこバザールを実施。(9/13)
	10月	第7回やましな駅前陶灯路が開催され、学生たちが運営や緊急時対応の中心となって活躍。(10/11)
	10月	丹波市水害地域支援ボランティア活動を実施。現代ビジネス学部の学生たちが運営や緊急時対応の中心となって活躍。(10/12)
	10月	京都中央信用金庫主催「中信ビジネスフェア」にブース出展。(10/15)
	10月	地域連携センター主催「第3回橘セッションー醍醐地域との連携を考えるー」を開催。(10/15)
10月	清水焼の郷まつりで、学生が活躍。(10/17～19)	
10月	2014年度第1回「京都橘大学山科(醍醐)地域教育懇話会」を開催。(10/22)	
10月	大学祭で、看護学部教員と学生による「たちばな健康相談」および、児童教育学科有志による「たちばなちびっこランド」を開催。(10/26)	
10月	京都市、醍醐中山団地町内連合会と「京都市、京都橘大学及び醍醐中山団地町内連合会の地域連携事業に係る協定書」を締結。(10/30)	
11月	山科三条街道商店会「わくわくフェスティバル」にボランティアスタッフとして参加。(11/15)	
11月	ふれあい“やましな”2014区民まつりで京都橘大学放送研究部が司会を担当。(11/23)	
12月	「第10回京都から発信する政策研究交流大会」で本学学生および大学院生が京都府知事賞と京都市長賞を受賞。(12/7)	
12月	理学療法学科の教員と学生、滋賀県野洲市の高齢者対象体力測定報告会を実施。(12/9)	

2014年	12月	学生食堂に寄付金付きメニューが始まる。NPO 法人「山科醍醐こどものひろば」の貧困対策事業に寄付。(12/11)
	12月	地域連携センター主催「第4回橘セッションー山科区老人クラブ連合会に支えられた看護学部…そしてこれからの10年」開催。(12/24)
	12月	滋賀県草津市との包括協定締結。子育て支援の充実を軸とする連携事業を開始。(12/25)
2015年	1月	学生有志、滋賀県守山市で開催の「第3回まちゼミキッズ」の手伝いをする。(1/17)
	1月	看護異文化交流・社会連携推進センター主催、公開講座「生活にいかそうリラクゼーション」を開催。(1/21)
	1月	現代ビジネス学部学生有志、わいわいハウス・ポラキナソにて「めくるめく紙芝居」ワークショップ開催。(1/25)
	1月	醍醐中山団地「地域連携センター分室」および「国際シェアルーム」の改装工事に、本学建築コースの学生が参加。(2/9)
	2月	地域連携センターの公式フェイスブックを開始。
	3月	本学学生と教員151名が、「京都マラソン2015」の医療救護サポーターとして活躍。
	3月	醍醐中山団地における「地域連携センター分室」「国際シェアルーム」の開設を前に、同施設内覧会を開催。
	3月	2014年度第2回「京都橘大学山科（醍醐）地域教育懇話会」を開催。(3/20)
4月	京都橘大学地域連携推進機構 地域連携センター「醍醐中山団地分室」および「国際シェアルーム」オープン。開所式を催行。(4/6)	

地域連携の主な実績集

震災被災地ボランティア活動・地域ボランティア学生団体

地域課題研究と実践

地域交流

地域におけるゼミ活動

補助金

■ 震災被災地ボランティア活動

東日本大震災被災地ボランティア

京都橘大学×教職員+学生有志

本学では、2011年3月11日に起こった東日本大震災以来、4回にわたって現地でのボランティア活動を行ってきました。第1回は、2012年度に岩手県釜石市を中心に活動し、2013年度の第2回も同じく岩手県釜石市で、第3回は場所を変えて宮城県東松市で活動しました。

2014年度は前回の第3回と同じく、宮城県東松市のNPO法人児童養護施設支援の会や地域の小学校、ケアハウスの方々にご支援いただき、本学学生26名と教職員3名が参加し、ボランティア活動を実施することができました。

第4回東日本大震災被災地ボランティア事前学習会

8月25日（月）から29日（金）までの5日間にかけて実施予定の活動に向けて、参加学生たちが事前学習会を開催しました。

事前学習会は全3回を実施。

各回でボランティアに参加するにあたっての心構えと注意点の説明が行われ、その後、事前に配布された被災地の現状に関する新聞記事についてグループでディスカッションを行い、どういった解決策が考えられるか検討しました。さらに2回目、3回目の学習会を通じ、これから参加するボランティア活動の意義について理解を深めました。



事前学習会の様子

現地での活動

被災から約2年半が過ぎ、沿岸部に散乱していたがれきは、すでに撤去されていました。しかしながら、人口の減少や地域コミュニティの弱体化、地域産業衰退など、被災地には今もさまざまな課題が残っています。

今回の活動はこうした現状に対し、草の根レベルで学生ができることがあると考えて企画されました。

活動先は東松市立鳴瀬桜華小学校、ケアハウスはまなすの里、NPO法人児童養護施設支援の会の3カ所。学生はグループに分かれ、小学校での児童との交流やグラウンドの草取り、宮戸島大浜海岸でのゴミ拾いなどの活動を実施しました。また、震災後、現地でボランティアを実施している方々の話を聞く機会も得ることができました。

学生からは「被災地に来て、現地の方の生の声を聴くことで、「報道ではわからない多くの課題があることがわかった」「短い時間であったが、東松島の子どもたちと交流ができ、笑顔になってくれたのがうれしかった」などの声があがりました。



現地での活動の様子

活動を終えて

本活動は、学生たちの被災地への貢献および活動を通しての学生の成長という、2つの視点での成果達成を目的にしてきました。

被災地への貢献という点においては、現場のニーズに沿った活動を実施し、昨年度に続く継続的な活動が実施できました。

学生の成長という点においては、実際に活動を実施する前と後で、最初は漠然とした思いで参加する学生が多くみられましたが、活動をとらえて被災地に寄り添う考え方へと変化していったのが、報告会や報告書などからうかがえました。



■ 地域ボランティア学生団体

大学のボランティア団体をサポート

ボランティア推進委員会

丹波市水害地域支援ボランティア活動を実施

ボランティア推進委員会とは

ボランティア推進委員会は、2008年に、京都橘大学のボランティア団体または社会的要請に応えるプロジェクト団体を支援するために設立されました。

所属するボランティア団体は、救急救命研究会、京都子ども守り隊～守るんジャー～、手話サークル、スポーツリハビリテーションサークル、ピアカウンセリングサークル、防災サークルの6団体があります。各団体はそれぞれが主体的に活動しており、推進委員会の主体的な活動としては、社会的要請に応えるプロジェクト団体を組織し、ボランティア活動を実施していくことがあります。

2014年度の活動

10月12日（日）、丹波市市島町にて、本学学生団体・ボランティア推進委員会を中心とした学生たちが、災害ボランティア活動を行いました。

丹波市市島町は、本年8月16日から発生した豪雨によって大規模な土砂災害が発生し、尊い人命が失われ、多数の住宅が全半壊や床上浸水等の被害を受けました。

9月に入り、ボランティア不足がメディアでも取り上げられていたことをきっかけに、ボランティア推進委員会が、今回の活動を企画。参加者の募集期間が短期間であったにもかかわらず、学生35名と教職員1名が参加しました。



被災した現地では

災害から2ヵ月たった今でも家屋の状況は深刻でした。胸の高さぐらいまである土砂が部屋の一面を埋め尽くしており、とても人が暮らせる状態ではありませんでした。学生たちはシャベルで土砂をかき集め、手押し一輪車に乗せて外へと運び出す作業を行いました。

土は大きな石が混じり、水を含んでいたために作業は困難を極めました。学生たちの協力によって、多くの土をかき出すことができました。

36人で一日中活動しても、家屋ひとつの土砂をすべて取り除くことはできずに終わり、今後も継続してボランティアを必要としていると感じました。

この活動はこの1日だけではなく、その後も11月12日には第2回が、11月30日には第3回が実施され、それぞれ14名と21名の学生が参加し、延べ70名の学生が参加しました。



シャベルで土砂をかき集める学生たち

■ 地域ボランティア学生団体

かけがえのない命を守るための研究と実践

救急救命研究会 –TURF–

現代ビジネス学部現代マネジメント学科学生+教員×京都市・山科区ほか

地域防災の一翼を担える存在に

救急救命研究会 TURF (Tachibana University Rescue Family) は、2008年に発足。救急救命士の国家資格取得をめざす学生たちが中心に集まった同好会です。発足から今年8年目を迎えます。大学の講義ではなく、学生が主体的に学修する研究会で、どのような方法で命を助けるのか、どうしたら事故を未然に防げるのか・・・救急救命についての技術・知識の向上、心肺蘇生法・応急手当法の普及を行うことを目的に活動しています。



地域連携へ向かって

発足後、学生たちは、大学で得た知識や技術を、どんな形で地域の人たちに還元できるのか考え、活動の場を求めて行政関係者や医療従事者・消防関係者のセミナーや勉強会にも積極的に参加しました。そこで地元の自治会や防災組織の方たちを紹介してもらうなど、地道な活動をつづけてようやく軌道に乗り始めたのが発足3年目ころでした。地域でのセミナーや勉強会を重ねるうちに地域住民との交流が深まり、各種イベントの救護や防災教育などを期待されるようになっていきました。「少しずつではあるが地域防災の一翼を担える存在になれたと自負している」と、本学教員の顧問は語ります。



おおきく広がった地域連携の輪

現在は、山科大宅地区をはじめ、他地区の町内会自治会などの自主防災組織にとどまりません。心肺蘇生講習会・応急手当講習会・学区の防災訓練・防災教育はじめ、京都マラソン学生救護サポーター実行委員会委員、各種イベント時の救護活動などの依頼を受けるまでになってきました。そのほか、主に病院前救護に関わる人々が外傷に対する知識・技術を習得する講習会や大規模災害医療訓練等にも参加しています。今年度の実績としては、地域での講習会指導12件、イベント救護活動14件、訓練参加8件、学外勉強会5件です。

★TURFが実施する心肺蘇生法講習では、一人一体の簡易訓練人形を使用しているため、公的機関が実施する講習会と同等以上の講習内容がより短時間で実施できることが特徴です。



地域の防災・減災に向けて

2010年度より、山科区内の小学校学区の交通危険箇所やAED設置場所、災害時避難所などが確認できる地図ハザードマップを作成しています。現在までに、大宅地区、観修学区、小野学区のハザードマップが完成。マップは、学区内の小学校と幼稚園に配布しています。また、地域のこどもたちには、防災教育カードゲームぼうさいダックを使用した防災教育を行っています。講習会などで保護者が心肺蘇生や応急手当法などを受講している時間を利用して、小さいお子さんにガードゲームで楽しく災害時のFirst Moveについての知識を学ぶようにしています。

たしかな信頼と高い評価

2012年3月には、山科区表彰を受けました。山科区のハザードマップの作成や、区内での防災訓練の指導などの活動が認められたものです。

TURFの学生の評価は非常に高く、京都府内で実施されるJPTEC（日本救急医学会公認の病院前外傷教育プログラム）やDMAT（災害派遣医療チーム）の訓練には、必ず協力依頼されています。TURFの活動は、2012年から今年度までの継続事業として山科区の「山科“きずな”支援事業」にも選ばれ、いま、山科区住民にとって、TURFはかけがいのない存在として輝いています。



TURFのこれまでの活動記録まとめ

I. 主な講習会

- 京都マラソン救護ボランティア講習会 2012～
- 山科区大宅学区防災訓練 2009～
- 三条街道わくわくフェスティバル（山科区）2009
- 東山区清水学区防災訓練 2010・2012
- 音羽草田町西自治会応急手当講習会（山科区）2011
- 京都橘中学高校教員研修応急手当講習補助 2014
- 聖母学院高校救急救命講習授業補助 2009・2012・2015
- 京都学生祭典 2008

II. 主なイベント救護

- 京都マラソン 2012～
- やましな駅前陶灯路 2011～
- 山科子ども祭り 2011～
- 観修おやじの会主催子供キャンプ 2011～
- 大宅小学校サマーフェスティバル 2011～
- 山科区ふれあい文化祭 2010
- 京都学生祭典 2008・2010

III. その他

- ハザードマップ作成
- 救急医療情報キット配布



ハザードマップ

救急医療情報キットとは

一人暮らしや高齢者のみのご家庭で急に具合が悪くなったときなど、事前に掛け付け病院や持病、緊急連絡先など情報を記入しておき到着した救急隊などがこの情報を基に病院搬送やご家族などに連絡するためのもので、通常は冷蔵庫などに入れておきます。



■ 地域ボランティア学生団体

地域の人たちと楽しいイベントをつくる

げん Kids ★ 応援隊

人間発達学部児童教育学会有志

げん Kids ★ 応援隊～活動の3つの意義～

げん Kids ★ 応援隊は、京都橘大学人間発達学部児童教育学会に加盟するボランティア団体です。2008年2月に結成し、同年4月に活動をスタートさせました。活動も今年で6年目になります。

げん Kids ★ 応援隊の活動には、3つの意義があります。

一つめは、子どもたちの経験を豊かにすることです。今の子どもたちの現状を見ると、さまざまな年代の子どもたち相互の交流が少なくなっているように思います。だからこそ、いっしょに体を動かしたり、モノづくりをしたり、自然に触れ合う体験をして、より多くの仲間とのつながりをつくり出すことをめざしています。その結果、子どもたちの新たな成長につながればと願っています。

二つめは、「子どもたちといっしょに何かしたい」「教育・保育の営みを実践的に学びたい」という自分たちの考えを形にして実現することができることです。げん Kids ★ 応援隊の活動は、誰もが企画を立ち上げ実行できます。活動を通して、子どもたちの成長を肌で感じ、自分たちも成長できればと考えています。

三つめは、地域の中で安心して子どもを活動させる場をつくりだすことです。特に、保護者が安心して子どもを預けることのできる場をつくりあげたいと思っています。また、子ども、大人、地域の人たち、学生がつながり合う場を設定し、交流をしながら地域振興の力を生み出していくこともねらっています。

げん Kids ★ 応援隊の活動内容

げん Kids ★ 応援隊の活動は、子ども参加型の体を思いっきり動かして遊べる企画や物づくり企画など、子どもの創造力を育む企画が多いのが特徴です。普段、家や学校で思いっきりできないような体験ができるので、子どもたちの反響も大きいものがあります。企画によっては、参加者が100人を超えることもあるほどです。

また、地域の人たちの依頼で、大学外でイベントを行うこともあります。ペープサートを使った人形劇やレクリエーションの依頼、子ども祭りや夏祭りのお手伝いなど、年々依頼が増えてきました。

企画を考えるたびに、大学周辺の小学校や児童館に活動を知らせるチラシを配って広報活動をしています。

現在、げん Kids ★ 応援隊のメンバーは、1～4回生を合わせて約40名います。代表・副代表・会計・事務の4役が組織の中心的に役割を担っています。2013年度は次のような活動にとりくんできました。

- 5月 母の日企画イベント（京都橘大学児優館3F 図工室）
- 6月 ダンボール遊び（京都橘大学大アリーナ）
- 7月 勸修小学校 学内キャンプ&夏祭り
- 8月 山科地域の地蔵盆での劇・あそびコーナー
- 9月 山科おやじフェスタ、勸修老人会イベント
- 11月 運動会企画（京都橘大学グラウンド）
- 12月 クリスマス・イベント（京都橘大学児優館3F 図工室）
- 2月 卒業生によるスペシャル・イベント（京都橘大学大アリーナ）



勸修小学校学内キャンプ

地域での活動の場が広がる

“体験あそび”に参加した子どもたちからは、「いろんなゲームがあって面白かった」「楽しかった。また行きたい」と好評でした。また、参加した保護者からも、「なかなか楽しい企画でよかったです。これからも地域の人たちと連携して楽しいイベントを企画して頂ければと思います」と賛同の声をいただきました。

地域での活動として、山科区中在家町内会主催の地蔵盆に参加しています。ある時は、40分の時間を使って、8名で「ねずみくん 大きくなったらなにになる」の劇とあそびコーナーを行いました。

「ねずみくん 大きくなったらなにになる」の劇は、2週間にわたって準備をしました。まずは台本づくりです。大学の図書館で子どもたちが喜ぶような絵本さがしをしました。しかし、内容が少なかったので、新たなストーリーをつくりました。台本ができあがると、登場人物に合わせたペープサートや背景などをつくりました。このように、地蔵盆での劇の公演の依頼がくるたびに、新たに劇の台本をつくり、自分たちも楽しみながらとりこんでいます。

げんKids★応援隊の活動は、2014年度まで山科“きずな”支援事業補助金の交付を受けて行ってきました。げんKids★応援隊の活動の幅も年々広がり、山科区だけでなく、さまざまな地域の人たちからも依頼を受けるようになっていきます。新しく声をかけてくださる人たちとのつながりを今後も大切にしていきたいと思っています。



2014年12月 クリスマス・イベント



2014年9月 山科おやじフェスタ

■ 地域ボランティア学生団体

近隣の子供たちの下校の見守り

京都子ども守り隊 ～守るんジャー～

京都橘大学学生ボランティア団体×山科区

子供が安全に育つことができる街・山科を目指して結成した日

「京都子ども守り隊 ～守るんジャー～」は、京都市山科区の京都橘大学の教員志望の学生たちが 2006 年 7 月 18 日に結成したボランティア団体です。

子どもが被害になる事件や事故が多発するなか、学校やPTAも自転車での巡回や防犯ベルの配布など、多方面からの対策はされているが、これで絶対大丈夫だとは言い切れないのでは？私たち地域住民の「意識改革」が必要不可欠。大学生と地域が連携して「こどもが安全に育つことができる街・山科」を作るために、京都のベッドタウン・山科で立ち上がりました。地域住民らの「大宅こども安全パトロール隊」とも連携し、下校する小学生が犯罪や交通事故に遭わないよう、見守り活動をつづけています。



結成当時、他大学でも学生ボランティア団体「守るんジャー」は活動していましたが、京都府内では初めての結成でした。結成式には山科警察署長をはじめ、大宅小学校校長先生、PTA 副会長、京都市教育委員会、全国の守るんジャーほか、多くの方々にご出席いただきご声援を頂きました。当時の代表、藤田知加さんは「将来親になる私たちが子どもの明るい未来を作り、京都の通学路を子どもの笑顔で満たしたい」と決意を述べ、メンバー全員が気持ちを新たにしました。

トレードマークはピンクのポロシャツ！

下校の見守りは、平日（月曜～金曜）の 14：45～16：15 頃まで、大学の空き時間や予定のない曜日に自主的に活動し、夜間のパトロールは、毎月第 3 土曜日の 19：30～大宅地区にて、地域の方と一緒に活動しています。そのほかには、地域の行事、大宅小学校での餅つき大会や岩屋神社祭り、子どものフェスタなど、山科区での様々な行事にも参加している。活動のときは、隊員はそろいのピンク色のポロシャツを着て黄色い旗を持っています。このシャツが「守るんジャー」のトレードマーク！なのです。



2012 年からは、山科“きずな”支援事業として

日々の活動が認められ、2010 年 10 月 15 日に京都会館第一ホールで開催された京都市自治記念式典で、「未来の京都まちづくり推進表彰」を受け、2012 年には「京都府防犯まちづくり賞」を受賞しました。当時代表の芳賀智美さん（人間発達学部児童教育学科）は、「地域の方々の協力やこれまでの先輩方の活動があったからこそこそただけの賞。これからも地域とのつながりを深め、積極的に活動してゆきたい」と語りました。同 2012 年には、山科“きずな”支援事業の補助金交付が決定し、2013 年度も引き続き、山科区のきずな支援事業と認定されました。2014 年度には、京都市教育委員会から感謝状を頂きました。

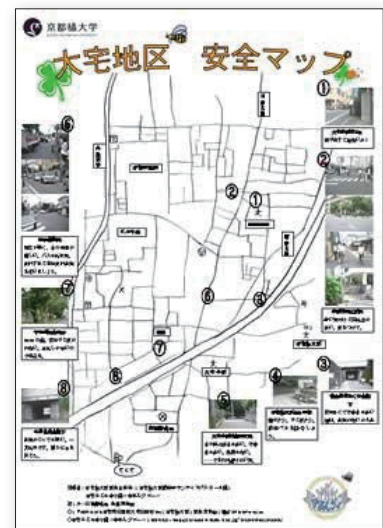


守るんジャーの活動記録まとめ

- 2006年 6月28日 大宅地区の安全マップを作成する
- 2006年 6月30日 京都子ども守り隊～守るんジャー～ HP アップ!
- 2006年 7月18日 結成式を行う
- 2006年 9月11日 KBS 京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」に出演
- 2006年 9月25日 中日新聞より取材・コラムに紹介される
- 2006年 9月26日 NPO 法人文化創造企画の取材を受ける
- 2006年 10月8日 京都学生祭典で、宣伝活動
- 2006年 10月19日 守るんジャーのユニフォームが完成!
- 2006年 10月22日 京都橘大学の学園祭で、宣伝活動
- 2006年 11月9日 大宅地域連絡協議会主催子ども安全パトロール隊交流会
- 2006年 11月15日 京都府内高校・大学防犯対策会議に出席
- 2006年 12月23日 ボランティア活動推進フォーラム京都大会のオープニングで司会進行役をつとめる
- 2007年 1月31日 大宅地域連絡協議会主催大宅地域パトロール隊交流会に参加
- 2007年 7月19日 府民防犯「みんなの力で地域の防犯! 知事と和い和いミーティング」に招かれる
- 2010年 10月15日 未来の京都まちづくり推進表彰を受ける
- 2012年 6月29日 「2012年度 山科きずな支援事業」に認定される
- 2012年 7月12日 京都防犯まちづくり賞を受賞
- 2014年 4月 デイサービスにてくもん学習療法を実施
- 2013年 6月29日 「2013年度 山科きずな支援事業」に認定される
- 2015年 1月31日 「次世代防犯ボランティアリーダー育成プログラム研修会」に出席

守るんジャーたちが作った大宅安全地図

2006年6月には、本学の学生が中心となって大宅地区の安全マップを作成しました。マップの作成メンバーは京都橘大学学生自治会と京都橘大学防犯ボランティアパトロール隊、京都子ども守り隊 守るんジャーの隊員たち。メンバーは大宅地区を点検してまわり、例えば交通量が多く狭い道路や信号のない交差点、また夜道は人通りが少なくなる場所など、通行の際に気をつけるべきポイントをピックアップ。地図上に各ポイントを写真つきで解説しています。この大宅安全マップは、それぞれの防犯意識を高めることを目的に、大学生にも配布されました。小学校には、山科警察署を通して配布が予定されていたため、子どもの目線で死角になりやすい場所にも注意したつくりとなっています。



■ 地域ボランティア学生団体

日本語ボランティアグループ

たちばな倶楽部

文学部日本語日本文学科日本語教員養成課程受講生 + 指導教員

日本語ボランティアたちばな倶楽部をはじめて 10 年

たちばな倶楽部は、京都橘大学の日本語教員養成課程を受講している学生を中心とした日本語ボランティアグループです。対象者は、京都市在住の日本語を母国語としない人で、毎週火曜日と金曜日の 18:30 ~ 20:30 に財団法人京都市山科青少年活動センターにて、日本語の教室を開いています。料金は、10 回で 2,000 円（1 回 200 円）。活動を始めてから 10 年以上が経過しました。

基本はマンツーマンのスタイルで

たちばな倶楽部では、教え方のスタイルを決めていません。日本語能力や日本語のニーズに個人差があるので、教科書を持ってくる人もいますが、教科書がない人には、どんなレベルの文法ができるのかを話しながら聞き出したりしています。そして、四技能（話す・聞く・書く・読む）の中で何を重点的にやりたいかをレディネス調査やアンケート調査などをして、学習者それぞれに合った教科書を大学で探したり、または日本語教員養成課程の先生に相談して教科書をすすめて頂いたりしています。

教室が終わるとミーティングのはじまり

午後 8 時 30 分からは、たちばな倶楽部のミーティングがはじまります。ミーティングをすることで、教室運営をスムーズに進められるようになりました。たとえば、①学習者のニーズを聞いて事前に準備できるようになった②学習者の勉強状況をシートにまとめておくようにしたので担当者が代わっても混乱がなくなった③名簿を作成するようになった④今ある問題やこれからの課題が整理できるようになった・・・などです。

先生の指導と日本語ボランティア研修会でさらに研鑽を

京都橘大学の日本語教員養成課程のカリキュラムでは、海外や国内での日本語教育実習も実施しています。日本語ボランティアグループも先生の指導を受けて教えています。さらに、(財)京都府国際センター京都にほんごRings(京都地域日本語ネットワーク)主催の日本語ボランティア研修会にも積極的に参加しています。



ゆかたで交流会



ミーティングの様子

■ 地域ボランティア学生団体

山科スポーツ障害対策 project

スポーツリハビリテーションサークル

健康科学部理学療法学科学生

山科区の運動部所属の中学生を対象に

スポーツ障害に対するリハビリテーションを学んでいるスポーツリハビリテーションサークルが、「山科スポーツ障害対策 project」を立ち上げました。今後は、山科区の運動部に所属している中学生を対象として、腰痛予防のための体幹トレーニングを指導します。

この取り組みを通してスポーツに励む中学生にとって腰痛予防に関する知識やトレーニング法を身につけるとともに障害予防に対する自己管理の意識を高めることを目指します。

指導は、ベーシックセブンエクササイズで

腰痛予防のトレーニングとして、腹横筋の機能が着目されています。今回の指導では、腹横筋の動きを超音波検査装置を用いて観察することで腹横筋トレーニングの方法を確認します。

さらに脊柱の歪みを調整し、筋リラクゼーションを行うことを目的としたストレッチポールによるエクササイズ（ベーシックセブンエクササイズ）を行った上で、腹横筋をはじめとする深腹筋を強化するトレーニングを中心に指導します。指導時間は各セッションとも概ね 40 分程度とします。

指導後には、各中学校を訪問し、指導した内容についての効果判定を行いました。

山科区の山科“きずな”支援事業に

平成 25 年度には山科“きずな”支援事業の 2 次募集において追加採択されました。



■ 地域課題研究と実践

清水焼を用いたあかりイベント

陶灯路 (とうとうろ)

現代ビジネス学会×山科区

陶灯路とは？

「陶灯路」とは、京都・山科地域の伝統産業などを使ったあかりイベントで2006年から本学と地域の連携活動から生まれた企画です。京都市山科区の西にある京都・山科清水焼団地で生産されている清水焼の器を主に使用し、器の中に、水、切子ガラスなどのグラス、ロウソクを入れたものを「陶灯器」（とうとうき）と呼び、様々な形に陶器を並べ、灯の路をつくります。

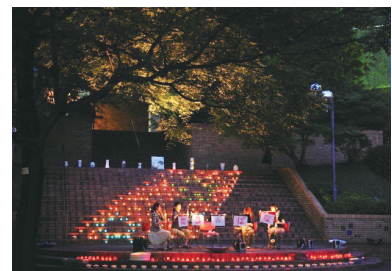
毎年7月に学内で開催される「七夕陶灯路」と毎年10月に山科駅前で開催される「やましな駅前陶灯路」に向けて本学の学生たちが地域住民の方々と一緒に取り組み運営しています。

「やましな駅前陶灯路」は第7回まで続いており、回を重ねるごとに来場者を増やしています。初年度は約1000人でしたが、7回目となる2014年度には約5000人と、2時間のイベントにもかかわらず多くの来場者が訪れています。地域内外から多くの人が集うイベントは、山科区において大切なイベントになってきています。

学生たちは、地域住民や清水焼の作家などの協力を得て、陶器の配置や空間のデザイン、安全の確保などを考え実施することにより、実践的な社会学習の場となっています。



「やましな駅前陶灯路」の様子



「やましな駅前陶灯路」の様子

陶灯路への思い

陶灯路には3つの思いがあります。

一つ目は、「日本・地球の元気づくり」です。

現代では、夜間でも電灯の明かりが溢れ、明るすぎるほどで電気を無駄にしている傾向があります。そこであらゆる電気を消し、蝋燭のあかりだけで過ごす機会を演出し、エネルギー問題を見直すきっかけを作ることができます。また、蝋燭のほのかで温かみのある「灯り」を用いることにより様々な社会の不安を解消し、新たな希望を見出す行為として灯すこともできます。

二つ目は、「地域の元気づくり」です。

山科固有の伝統産業である清水焼の器を灯りイベントに使う事で意外性のあるPRができます。そうすれば、伝統産品の良さ・面白さの再発見ができ、地域のイメージアップと個々（構成団体や参加市民）の魅力アップが相互作用し、「地域商業」や「観光」の振興を目指すことができます。

三つ目は、「学生の元気づくり」です。

京都橋大学現代ビジネス学部の学生がフィールドワークとして学ぶ場であり、実践を通じたスキルの向上を図ることができます。

例えば、駅前の広場や公園といった日常の空間をイベント空間化する「スペースデザイン」や、人を呼び込む創意と工夫、アイデア、感動内容、PR方法など観光に関する基礎的な学びの「観光ポイント演出」などの空間デザインや観光を専門に学習する学生はもちろんのこと、客が求めるものは何か、どのような手順で進めるか、どのような演出をすればよいかなどプロデュースや企画を実行し完了するまでにどのような管理・経営をすればよいかといったマネジメントの学びといった実践的な社会学習も可能です。

また、老人クラブなど地域住民がボランティアとして参加しており、運営やイベント当日の指示などを通じて協調性やコミュニケーション能力の向上も見込めます。

■ 地域課題研究と実践

地域の人たちを対象にした子育て支援

パパとママのこころ育て広場

心理臨床センター×健康科学部教員+学生

ふれあい遊びから親同士語りあう時間へ

「パパとママのこころ育て広場」は、小学校に上がる前までの年齢のお子さんとその保護者を対象に行われるグループ活動です。今年度は8回の開催で、保護者35名、お子さん44名（ともにのべ人数）のご参加を頂きました。スタートして2年目ですが、ご好評を頂き、少しずつ参加人数も増えています。

土曜の午前中、乳幼児を連れての方や、お腹に赤ちゃんのいる方など、数組が心理臨床センターのプレイルームへ集まってきました。出迎えるスタッフは、健康科学部心理学科の、臨床心理士の資格を持つ教員、学生ボランティア数名、保育士です。まずは、みんなで一緒にふれあい遊びをします。最初は緊張気味の子どももどんどんほぐれていき、周りに気を使っていたお父さんやお母さんも、子どものパワーに押されるように顔が緩んできます。ほぐれたところで、保護者のみ別の部屋へ移動し、臨床心理士の進行で、親同士語りあう時間をもちます。それぞれの子育てにまつわる「困りごと」「愚痴」「気持」などを共有するのです。時には共感してうなずきあい、時にはアドバイスしあい、お互いに受け止めあう、心地のいい時間が流れていきます。あっという間に予定の1時間が経過し、子どもたちのいるプレイルームへ戻ると、大盛り上がりの子どもたちや学生の姿が飛び込んできます。最後はまた、みんな一緒に遊んで、全員が輪になって「また来月！」となります。

子どものこころが育つ場に

「こころ育て広場」というネーミングには、ここを子どものこころが育つ場にしたい、という願いを込めています。普段の遊びとは少し違った、異年齢の仲間たちや、受け止めてくれるお姉さんや大人たちとの「つながり」が、子どもの育ちの場を作っていくと考えています。そして、子どもだけではなく、親のこころを育てるという意味も込めています。子育てには、楽しいことや喜びもたくさんありますが、悩みや戸惑いもつきものです。そうしたことを、親同士がつながって、安心して共有できる場というのは、ありそうでいてなかなかないものです。そんな貴重な「つながり」から、親の育ちの場も広げていきたいと考えています。

さらに、この活動にボランティアとして参加する心理学科の学生にとっても、育ちの場としての意義は大きいものです。今年度はのべ40名の2・3回生が参加しました。学生は、子どもとのかかわりとその後の振り返りミーティングを通じ、子どもの発達についてのみならず、相手のこころを知ることや自分のこころと向き合うことについて、体験的に学ぶことができます。ただ、現状では参加を希望する学生数が多いため、1人につき年間1～2回しか参加できていません。継続して参加して下さる親が増えつつあり、学生側も毎回同じメンバーが継続してかかわるメリットがあると思われます。多くの学生にボランティアの機会を提供したいという思いがある一方で、参加する子どもへのかかわりや学生の学びの観点からは、人数を絞った固定メンバーでの継続が望ましい部分もあり、今後の検討課題となっています。



プレイルームの様子

■ 地域課題研究と実践

大学祭に地域の子どもたちが参加する

たちばなちびっこランド

人間発達学部児童教育学科学生

地域の子どもたちに楽しい遊び場を

実習以外のフィールドワークを積極的に展開しているのが、京都橘大学ですが、学生の自主活動も盛んです。「ちびっこランド」は、児童教育学科の1、2回生が実行委員会をつくり、大学祭の時に実施する、地域の子どもたちを対象とした楽しい企画です。多種多様な子どもたちの遊び場をつくり、子どもちと思いっきり遊びます。もちろん、学生たちにとっては、地元の幼稚園、保育園、小学校との日頃の交流と大学での学習の成果を発表する絶好の勉強の場でもあります。

2014年のテーマは「ものづくりの楽しさ！」

2014年度は、大学内の教室や廊下を使って、お絵かきや宝探しゲーム、輪投げ、スライムづくり、楽器づくりなど13の企画を行い、子どもたちが思いっきり遊べるスペースを用意し、地域の子どもちと楽しい時間をすごしました。授乳室やオムツ交換スペースなども用意し、来場者800人を超える盛況ぶりで、同じく大学祭で開催される「たちばな健康相談」とともに、地域のみなさんに喜ばれています。



■ 地域課題研究と実践

大学祭の恒例行事

たちばな健康相談

看護異文化交流・社会連携推進センター×看護学部教員＋学生

2014年度で10年目

京都府下の私立大学では初となる「看護学部」が開設された2005年から、「たちばな健康相談」がはじまりました。看護学部、看護異文化交流・社会連携推進センターがもつ知的資源や教育資源を最大限活用して山科区民に還元することによって、地域に貢献することが目的です。毎年10月、本学の大学祭「橘祭」に合わせて開催されています。継続的に参加される方も多く、地域での認知度も高い企画です。

地域の方々からの高い評価

内容は、看護学部教員と学生が協力して、地域の人たちの身体測定（身長・体重・腹囲・体脂肪率）、血圧測定、骨密度測定、塩分チェック、乳がん自己検診、肩こり解消、健康相談などを行います。子供から高齢者まで、世代を問わず、出産・子育て・病気・心の健康・生活習慣病・介護など、さまざまな健康問題に答えます。

活動は、今年で9年目となり、地域に根づいた活動となっています。会場には、同時開催される「たちばなちびっこランド」も用意されており、家族連れ、地域の老人会はじめ、毎回たくさんの方にご参加いただき、高い評価を得ています。



■ 地域課題研究と実践

高齢者の健康づくり

高齢者の健康促進活動

健康科学部理学療法学科教員＋学生×野洲市

活動の内容

健康科学部理学療法学科の学生と教員は、2014年9月滋賀県野洲市と連携し、健康づくりに関する調査研究の一環として、野洲市在住の高齢者を対象にした健康促進活動に取り組みました。

この取り組みは、高齢者の健康維持ならびに向上に関する実態を明らかにすることにより、介護予防プログラムの基礎資料作成に役立てられます。

今回 392 名の野洲市在住高齢者の方々に参加協力いただき、調査した内容は、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査と多種に及びました。

これら調査結果は、参加いただいた方々を対象とし、12月に結果報告会を野洲市総合防災センターで開催しました。当日は調査・測定で判明した参加者の体力・認知・心理機能についての詳細な報告をはじめとし、転倒予防体操の紹介・実演や個別相談会も行われ、参加頂いた方々の健康に対する高い意識が学生・教員ともに改めて認識できる大変意義のある時間となりました。

1冊のガイド書に

そして、今回の調査結果をもとに「高齢者向け健康づくりガイド」の作成に学生ならびに教員ともに取り組んでいましたが、2015年1月に完成されました。

野洲市在住高齢者の方々へ、ご自身の体力の現状把握と介護予防や健康増進の手がかりとして活用していただくこととなります。

今後も、野洲市在住高齢者の方々に関する健康維持・向上への取り組みを理学療法学科生・教員ともに協力していく予定で、さらなる地域貢献に寄与したいと考えています。



測定・検査結果をもとに作成された
「野洲市生きがいサークル参加高齢者の調査報告」と「高齢者向け健康づくりガイド」



野洲市健康福祉センターや各公民館にお伺いした際の測定・検査風景



2014年12月 野洲市総合防災センターで開催された報告会

■ 地域課題研究と実践

守山市中心部の活性化をすすめるための実証分析

守山市民の購買行動に関する調査

健康科学部心理学科教員＋学生×守山市

活動の概要

健康科学部心理学科では、3回生配当科目として「マーケティング調査演習」を開講しています。心理学は実証的研究分野ですが、そこで用いられる調査法や観察法を使って消費者の行動を把握し、データを分析することで企業がすすめるマーケティングへの活用方法を体験的に修得するという実践的な授業です。

マーケティング調査演習は心理学科カリキュラムの社会・産業心理学分野に属していますが、心理学の実証的方法と理論は消費者行動関連や組織行動関連など、産業活動における様々な問題解決の中で重要とされており、心理学科での勉学を卒業後の会社での業務遂行に結びつけるための視点とスキルを養うという点で重要な科目と考えています。



JR 守山駅近辺の町並み

活動内容

科目開設の初年度である 2014 年度は、滋賀県守山市を学生たちが課題に取り組むフィールドとして設定しました。守山市は滋賀県東南部に位置する人口約 8 万人の都市であり、市中心部は古くは中山道の要所として栄えましたが、旧来からの住民人口の減少や商店の閉店などがすすみ中心部商店街の再開発などが課題となる一方で、京都市や大阪市への交通利便性が高いことから京都、大阪のベッドタウンとして若年人口の流入がすすんでおり、新規住民のニーズに応える形で市中心部の整備をすすめる必要があります。守山市は平成 21 年度より「守山市中心市街地活性化基本計画」をすすめ様々な成果をあげていますが、とくに市中心部の商業施設の整備は重要な課題であり、そこに居住する人々の生活利便性を高めるためには、日常生活で必要な食品や日用品の購買実態を把握する基礎データが必要となります。

本科目の調査はこのような要請に応える課題解決を目標として設定し、守山市役所都市経済部都市活性化局、守山商工会議所のご協力を得て実現しました。また市中心部の居住者の多くが利用する大型商業施設である平和堂守山店のご協力も得て、当店で来店者調査という形で調査を実施しました。

具体的な授業のスケジュールと内容

9月～10月

- ①マーケティング調査（来店者調査・来街者調査）の目的、方法、意義について過去のケースを踏まえて学習
- ②守山市に関する情報収集（守山市中心市街地の視察、守山市役所都市再生課および平和堂守山店における講義と質疑応答）

11月

- ①調査計画の立案と調査項目の作成
- ②面接調査のトレーニング
- ③平和堂守山店での調査実施（2日間）

12月

- ①調査データの整理（コーディングと入力）

1月

- ①統計分析ソフトウェアによるデータ分析
- ②レポートの作成



平和堂守山店の担当者の方の講義



学生たちは熱心に取り組んでいます



平和堂守山店での面接調査風景①



平和堂守山店での面接調査風景②

守山市民の買い物行動調査 実施中

★実施要項★



実施日時：11月29日(土)
午前10時～午後5時頃まで

実施場所：1階正入口付近

対象者：高校生以上で守山市民の方
(グループでお越しの方は、代表者様1名をお願いします)



実施時間：10分～15分程度



調査員：京都橘大学の学生

前回の調査(11/16)にご協力いただけない方をお願いします!

ご協力頂いた方には商品として洗濯用洗剤をプレゼントいたします♪

調査への協力を呼びかけるポスター

守山市民の買い物行動調査・調査票

No. _____

調査日 2014年 11月16日(日)・29日(土) ※どちらか一方に○
調査開始時刻 _____ 時 _____ 分 調査員氏名 _____

・調査の依頼
※おおよそ高校生以上の守山市民の方に依頼をする。
※声をかけた方が守山市民でない場合は調査に協力をいただく。

依頼理由
※私は京都橘大学の学生で○と申します。調査にご協力いただけませんか？
※時間を測りながら「10分～15分ほど」と答える。
※調査実施中の場合はグループの他の人に代答をしていただく。友人同士などのグループの場合も同様に原則とするが、代表者を特定しづらい場合などは、複数のメンバーを対象者としても構わない(調査はかならず個人単位で行うこと)。この場合の謝礼は全員に渡すこととする。
※「[調査]」の時間をことわられたら、時間が経過する場合は無料の駐車券をお渡ししますと伝える。

依頼の目的
※私も京都橘大学では、守山市役所、守山商工会議所、平和堂守山店のご協力を得て守山を住みやすい街にするための調査を行っております。
調査の目的は、主として守山にお住まいの方が生活に必要なものをどのように購入されているかを知り、守山がすすめている中心市街地活性化計画に活用することです。
またこちらの平和堂守山店は、守山市中心部に住みやすい方にとっては生活に欠かせない施設ですので、このお店に關してもいくつかのことをお聞きします。
貴重なご意見をお聞きしたいと思しますのでご協力をいただきますようお願い申し上げます。

・質問の方法
調査員がそれぞれの質問項目を口頭で読み上げ、回答をしていただき、それを調査票に記入するという形で実施する(面接調査)。
※質問については、基本的には自由回答で回答をいただき、その内容にしたがってコーディング(符号化)をして調査票に記入するという考え方でよい。

① 自宅
#お住まいはどちらでしょうか？ _____ 市・郡 (_____ 区) _____ 町
※自由回答で答えをもらい記録する。

② 守山での居住年数・住居形態(守山市民のみ)
#守山にお住まいになっておおよそ何年目でしょうか？ _____ 年目
#マンション・アパートにお住まいでしょうか？
はい・いいえ

③ 同伴者
#きょうはどなたと一緒に来ておられますか？
1. 一人 2. 家族 3. 友人(仕事仲間を含む) 4. その他(_____)
※複数で回答できる場合(一人、家族連れや友達など)は誰か一人に記入のみを行う。

1

面接調査に使用した調査票

これまでの成果

平和堂守山店での2日間の調査により、主として近辺の中心部に居住されている245名の方の面接調査および店舗内5箇所で撮影された防犯カメラ映像を分析した上での通行量調査を行いました。面接調査の内容は①対象者の居住状態に関する項目(守山市民での居住年数、住居形態)、②対象者の来店形態や来店目的など、③買い物の不都合や希望するサービスなど(自由回答)、④「守山市」の長所と短所(自由回答)などでした。これらのデータを分析したうえで、市中心市街地在住の方々の日常的な購買行動の実態や守山市へのさまざまな要望が明らかになりました。

今後の目標・課題

まさに学生たちの努力の結晶である今回の調査結果についての報告書は守山市および数年後に店舗改築を予定している平和堂守山店の計画策定に関して重要な情報を提供したと考えています。今回の結果を踏まえてさらに情報収集の要請があった場合にはそれに応えるための調査を次年度以降にも行っていく予定です。また滋賀県内で同様の課題に取り組んでいる自治体の要請にも応えて本科目を展開していく予定です。

地域課題研究と実践

認知症高齢者の家族のために

いちごカフェ

看護学部看護学科教員有志+院生×山科区の老人保健施設

認知症高齢者の家族のために

いちごカフェは、2010年4月に始まりました。

当初施設に入所されている高齢者の家族への個別的支援活動（個別、グループに対するカウンセリング的支援）と効果の検討のために企画されました。この企画は、平成21～23年度年度科学研究費補助金「代表者：小野塚元子 認知症高齢者の家族介護者を対象にしたストレスマネジメント研修モデルの開発」の一環として実施した調査の結果から、家族介護者が気楽に通え、日頃の気持ちを他者に話せる集いの場作りの必要性を感じ「いわやの里」の協力を得て始めました。

対象者は、介護老人保健施設「いわやの里」の利用者の家族および訪問者と地域住民です。

家族が気軽に立ち寄れるカフェスタイルで

一期一会（いちごいちえ）の精神に基づき参加者の出会いの場となるのが「いちごカフェ」です。具体的には、認知症高齢者を含む高齢者を介護する家族が、気軽に立ち寄り、話していける場作りをし、介護負担の現状把握とともに、家族の負担軽減を図るきっかけづくりをするものです。このプロセスを通して高齢者を介護する家族への支援、そして健康教育の在り方を検討する資料となります。多くの方に利用してもらうため、参加者を家族介護者のみに限定せず運営してきました。そのため、参加者は、施設入所高齢者やその家族をはじめ地域包括支援センター、町内会からの紹介による地域住民など多岐にわたります。

多くの方々に期待されるいちごカフェへ

現在も引き続き、毎月2回のペースで「いちごカフェ」を開催しています。これまでの取り組みをより発展させ、学生もボランティアとして参加しております。平成26年1月から12月の活動では、開催回数21回、延べ参加者は、56人です。施設入所高齢者が圧倒的に多いですが、地域包括支援センター、町内会からの紹介による地域住民なども参加され、「いわやの里」の外からの参加者も増えつつあります。この活動は、大学の地域連携の取り組みであり、場所を提供いただいている「いわやの里」が目指している地域に根ざした活動の展開という趣旨にも合致している活動であると考えています。一部のリピーターはありますが、まだまだ、地域に定着とまでは言えません。地域に定着した活動にしていけたらと思います。

いちごカフェのご案内

こんにちは、いちごカフェは、いわやの里の近くにある、京都橋大学看護学部の教員と学生の有志で開催している手作りのカフェです。いわやの里のご利用者、介護をしておられるご家族、地域の方などでもご参加いただけます。いつもとは少し違う雰囲気、気分転換しませんか、お一人様のご来店も歓迎しています。

3、4月は下記の日程で開催させていただきます。初めての方もどうぞお気軽に手ぶらでお立ち寄り下さい。

日時：3月24日（火）
4月8日（水）、24日（金）

時間：午後2時30分～4時30分

場所：介護老人保健施設いわやの里 1階多目的室

お問い合わせ先： 京都橋大学看護学部
小野塚（電話075-574-4248）

お茶、コーヒー 無料です

いちごカフェのご案内

こんにちは、いちごカフェは、いわやの里の近くにある、京都橋大学看護学部の教員と学生の有志で開催している手作りのカフェです。いわやの里のご利用者、介護をしておられるご家族、地域の方などでもご参加いただけます。いつもとは少し違う雰囲気、気分転換しませんか、お一人様のご来店も歓迎しています。

3、4月は下記の日程で開催させていただきます。初めての方もどうぞお気軽に手ぶらでお立ち寄り下さい。

日時：3月24日（火）
4月8日（水）、24日（金）

時間：午後2時30分～4時30分

場所：介護老人保健施設いわやの里 1階多目的室

お問い合わせ先： 京都橋大学看護学部
小野塚（電話075-574-4248）

【アクセス】山科区大宅古海道駅52
京阪バス京都橋大学停留所下車徒歩3分

いちごカフェのチラシ

■ 地域交流

地域の声を本学の教育改革に反映させる

京都橘大学 山科(醍醐)地域 教育懇話会

京都橘大学×(山科区役所+地元経済界+社会福祉協議会+山科区自治連合会+NPO団体+地元医療界) など
各界代表による懇談会を開催

地域にとってかけがえのない大学へ

京都橘大学は1967年、山科区大宅の地に創立以来、地元山科地域に根ざし、地域に貢献し、地域から支持される大学を目指してきました。そしてこれからも、様々な活動に取り組み、より一層の努力を重ね、地域にとってかけがえのない大学でありたいと考えております。その際大切なのは、大学として地域のみなさまの声に耳を傾け、真摯にご意見をお聞きしながら、大学の教育改革を進めていくということです。このような考えから、2013年度より、地域の各界を代表する方々から、本学に対するご意見やご要望を拝聴する場として、「山科地域教育懇話会」を開催しています。

これまで、各界を代表する山科地域の有識者の方々にご出席をしていただき、本学に対する忌憚のないご意見やご要望等をお寄せいただいておりますが、2015年度からは、連携の場を山科区からさらに伏見区醍醐地域に広げることから、名称も「山科醍醐地域教育懇話会」とし、醍醐地域からもご参加を求め、本学と山科・醍醐地域とを結ぶ恒常的な「地・学連携」の場として発展させていく予定です。

2014年度「山科地域教育懇話会」ご出席団体名簿

山科区役所
一般社団法人 山科経済同友会
山科区自治連合会連絡協議会会長会
京都市山科区社会福祉協議会
洛和会みささぎ病院
特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば



2014年度 懇話会の様子

■ 地域交流

山科をまなぶ

山科カレッジ

共催：京都橘大学×山科区

京都橘大学と山科区の地域連携に関する協定の締結を記念して、京都橘大学との共催により、山科の歴史、文化、産業等を学び、体感していただける講座を開催しました。

第1回目「琵琶と山科～古典芸能の原点、街道のまち～」

日時：2014年7月19日（土）14：00～15：30

場所：山科区役所大会議室

講師：小谷 昌代（弦楽ふるさとの会代表）

① 四ノ宮と琵琶についての紹介：四ノ宮と琵琶の関係、歴史、四ノ宮琵琶を復興させようとする活動や四ノ宮地域の活性化の活動などについての紹介がありました。② 紙芝居「四ノ宮物語」：紙芝居「四ノ宮物語」を琵琶の弾き語りを交えながら上演されました。③ 琵琶の演奏：四ノ宮琵琶の演奏、演奏に合わせて童謡が披露されました。

第2回目「清水焼団地の見学と湯呑の絵付け体験」

日時：2014年8月2日（土）13：00～15：00

場所：清水焼団地内

① 清水焼の歴史等の紹介（於：清水焼の郷会館）：清水焼団地協同組合の谷口理事長から、清水焼および清水焼団地協同組合の歴史に関する説明がありました。② 清水焼の見学（於：洛中洛外ギャラリー）：洛中洛外ギャラリーにて、清水焼の作品を見学し、清水焼で制作された洛中洛外図屏風などの説明を受けました。③ 工房案内、清水焼製作の説明（於：コトブキ陶春）：職人による清水焼の製作風景を見学し、なかなか見ることのできない工房の中にも入り、実際に清水焼を焼く窯を見学させていただき、その後、清水焼の湯呑に絵付け体験を行いました。

第3回目「山科と食」

日時：2014年9月8日（土）14：00～15：40

場所：山科区内（芳治軒、はいから園農園）

講師：木下 達文（京都橘大学現代ビジネス学部教授）

① 京菓子司芳治軒：まず、区役所を出発し、芳治軒を訪問し、店主の清水幸治郎氏から、山科と京菓子をめぐってお話をいただきました。② はいから園農園：続いて、はいから園を訪問し、同園の林光男氏から、山科なすと山科とうがらしの栽培について、お話を伺い、農園の見学も行いました。③ 京都橘大学木下教授による講義：それぞれの訪問先と移動中のバスの車中で、木下教授による講義が行われました。

第4回目「随心院の歴史と美術」

日時：2014年10月25日（土）14：00～15：30

場所：随心院能之間

講師：小林 裕子（京都橘大学文学部准教授）

① 随心院の歴史について：最初に随心院の歴史についての講義があり、難しいテーマを、わかりやすい語り口でお話し下さいました。② 随心院の美術について：随心院の歴史について一通りの講義をされた後、それを踏まえて仏像をはじめとする美術品について、写真を示しながら講義がありました。③ 随心院での講義について：随心院の庭園が見える会場で、美しい風景を楽しみつつも、参加者の皆さまは真剣に講師の話に聞き入っていました。

第5回目「山科と忠臣蔵」

日時：2014年11月8日（土）14：00～15：30

場所：山科区役所大会議室

講師：進藤 秀保（大石神社宮司）

① 大石神社の歴史について：最初に大石神社の歴史に関して、戦前に設立に至った経緯や、大石神社の社紋が左二つ巴になっていることなどについて説明がありました。② 赤穂事件について：次に赤穂事件について、その原因について、時代背景を交えながら、いくつか原因とされる説についてのお話、また、山科に大石内蔵助が隠棲するに至った背景についてのお話がありました。

第6回目「山科の未来を考える」

日時：2014年12月6日（土）13：00～15：00

場所：京都橘大学明優館 D202 教室

事例報告：小暮 宣雄（京都橘大学現代ビジネス学部長）

佐藤 友一（京都市文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー）

登壇者：石黒 善治（山科区長）

細川 涼一（京都橘大学学長）

コーディネーター：木下 達文（京都橘大学現代ビジネス学部教授）



第6回山科カレッジの様子

① 事例報告：小暮現代ビジネス学部長より、「山科地域と京都橘大学との連携、あるいはアーティストと文化資源をめぐる実践ーアーツマネジメントは「まちづかい」「まちがたり」を産む術になりうるか？ー」をテーマに報告がありました。続いて、佐藤まちづくりアドバイザーより、「市民参加の新たな形ー区民と行政の協働はどこに向かうのか？ー」をテーマに報告がありました。② 山科の歴史についての紹介：石黒区長より、山科の歴史と発展について、写真を示しながらの紹介がありました。③ パネルディスカッション：石黒区長、細川学長、小暮現代ビジネス学部長、佐藤まちづくりアドバイザー、コーディネーターである木下教授の5名で、山科区の文化振興、まちづくり、観光などをテーマにパネルディスカッションを行いました。



山科カレッジの案内パンフレット「山科をまなぶ」

■ 地域交流

地域との連携をいっそう発展・促進させるために

橘セッション

地域連携センター×自治体×企業×NPO 法人 他

地域連携センターでは2013年度より、地域社会や地方自治体・企業・NPO法人等との連携・交流をいっそう発展・促進することを目的とした企画である、「橘セッション」を開催しています。

第1回「地域と大学の連携—自治体との連携を考える—」

日時：2013年7月24日（水）15：00～17：00

場所：京都橘大学第二会議室

地元である京都市や山科区との連携を確認する場として、山科区などから4名の講師を招き、「地域と大学の連携—自治体との連携を考える—」をテーマに、京都市、なかでも特に山科区において、どのように地域を動かすための方策を考え、活動を行っているのか、その地域振興の取り組みや、今後の活動予定などについて報告が行われました。また、本学現代ビジネス学部の織田直文教授から、これまでの本学と山科地域との連携事業について報告も行われ、当日は、教職員をはじめ、本学学生や卒業生、そして山科を中心にさまざまな活動に取り組んでいる人など、約70名が来場し、熱心に耳を傾けていました。

また、橘セッション終了後、クリスタルカフェにおいて懇親会が行われ、地元の山科ナスを使った料理や、本学と山科の洋菓子店「ローヌ」が共同開発をした「山科ぶどうタルト」などが振る舞われ、盛況のうちに終了しました。

（※詳細は地域連携センター広報誌『つながる』Vol.3に掲載）

第2回「山科区における子どもの日常生活を考える」

日時：2014年1月15日（水）15：00～17：00

場所：京都橘大学明優館D202教室

「山科区における子どもの日常生活を考える」をテーマに、地元の山科区における子どもを取り巻く状況について3本の報告がありました。

まず、報告Ⅰでは、本学学生団体、「げん kids ★応援隊」と「京都子ども守り隊～守るんジャー」が、どのように山科地域で子どもを守り育てる活動を行っているかの報告を行い、続いて報告Ⅱでは、「京都不登校の子を持つ親の会」世話人の林敬子さんが、自身の体験談を交えながら山科区における不登校の子どもの状況や地域との関わり方について詳細な発表をし、報告Ⅲにおいては、山科区役所福祉部支援課から山科区における取り組み状況や実態、地域の特徴について報告が行なわれました。今回は茶話会形式で地元山科の銘菓がふるまわれ、気軽な雰囲気の中が進められ、それぞれの報告に対する質疑応答や、山科地域の問題などについても活発な意見交換が行なわれ、盛況のうちに終了しました。

（※詳細は地域連携センター広報誌『つながる』Vol.4に掲載）

第3回「醍醐地域との連携を考える—文化・観光・まちづくり—」

日時：2014年10月15日（水）15：00～17：00

場所：京都橘大学第二会議室

「醍醐地域との連携を考える—文化・観光・まちづくり—」をテーマに、3本の報告を受けました。

報告Ⅰでは、本学から最も近い世界遺産である醍醐寺の長瀬福男氏が、醍醐寺の有する文化財の多彩さと、それを守り伝えてきた地域の力についての報告。報告Ⅱでは、京都市伏見区役所醍醐支所地域力推進室まちづくり推進課長の中井秀和氏が、京都市の地域コミュニティ活性化対策と、醍醐地域の歴史、特性、現状、今後の課題について報告しました。報告Ⅲでは、

本学客員講師で京都市文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザーの谷亮治氏が、まちづくり活動の目的、醍醐地域の特性、地域連携の留意点等について、具体的な例や数値を挙げながら報告しました。

充実した報告が続き、ディスカッションをする間もなく閉会時刻となりましたが、続く懇親会において、なごやかな雰囲気のもと、醍醐地域の連携について熱心な議論がかわされました。

(※詳細は地域連携センター広報誌『つながる』Vol.6に掲載)

第4回「山科区老人クラブ連合会に支えられた看護学部…そしてこれからの10年」

日時：2014年12月24日(水) 14:00～15:30

場所：京都橘大学明優館D202教室

「山科区老人クラブ連合会に支えられた看護学部…そしてこれからの10年」をテーマに、座談会と2本の報告が行われました。

まず本学看護学部の河原宣子教授が、山科区老人クラブ連合会との連携の概要について述べ、学生の入学式から卒業式まで4年間の学びと成長の様子をスライドショーにて報告しました。

それに続く座談会では、実習、演習、家庭訪問に分けて連携の具体的な取り組みを振り返り、フロアからも、率直、かつ看護教育の本質に触れる質問が出され、これからの10年を展望するにふさわしい座談会となりました。

これを受けて、遠藤俊子看護学部長は、山科区老人クラブ連合会の協力に深謝するとともに、今後も、くらしの現場に寄り添う看護職を育てるためのいっそうの連携・交流と協力を要請しました。

閉会の挨拶に立った山科区老人クラブ連合会の山田会長は、「体力測定は高齢者の安全・安心なくらしに本当に役立っている。京都市老人クラブ連合会の会合で、私どもの連携・交流の様子を報告すると、『京都市内に大学は数あれど、京都橘大学ほど地域と密接に連携している大学はない』と、驚きの声があがる。今後もますます交流を深めたい」と述べられました。

第2部の懇親会(於：本学クリスタルカフェ)は、クリスマスパーティーを兼ねて、老人クラブの日頃の労をねぎらう場となり、終始、感謝の気持ちに包まれました。

(※詳細は地域連携センター広報誌『つながる』Vol.7に掲載予定)



第1回橘セッション 会場の様子



パネリストの皆様

■ 地域交流

山科消防署「文化財研修会」への参加協力

文化財防火訓練

文学部歴史遺産学科×京都市×山科区

大切な文化財を火災などの災害から守るために、京都市では、毎年7月中旬に「夏の文化財防火運動」を実施、その一環として、山科区でも「文化財研修会」を開催しています。

「単なる知識にとどまらず、地元の皆さんの文化財市民レスキュー体制への取組に対する熱意を実感していただきたい」と、本校に研修会参加の要請があったのは2001年のこと。歴史遺産学科の学生が、勸修寺の防火訓練を受講し、京都の文化財消防活動に実践で参加することができました。それから毎年、本学の歴史遺産学科の学生が文化財防火訓練の研修を受講しています。

研修会は山科消防署の方から防火訓練、文化財防火に関する講義を受講し、住職による寺の歴史や文化財についてのご講話もいただきます。2012年は京都市山科区の随心院、2013年は勸修寺、2014年は毘沙門堂の研修に参加し、すっかり定着した行事になりました。

真言宗大本山勸修寺での合同消防訓練

昨年度（2013年度）は、歴史遺産学科学生53名と教員5名が勸修寺での研修に参加しました。訓練の参加者は、山科消防署消防隊、勸修寺自衛消防隊、文化財市民レスキュー隊、万灯会、小野消防分団。消防隊・消防団・自衛消防隊及び文化財市民レスキュー隊との合同消防訓練も実施しました。

職員から消火器の取扱い説明を受けた学生は、実際に放射の訓練を行います。1本よりも2本、2本よりも3本！より多くの消火器が集まれば、更に初期消火の効果が上がります。参加学生によるバケツリレーもしました。



写真 京都市消防局 HP より

火災時の初期活動は地域との連携が大きな力

「消防隊到着！」住職から情報を入手し、消防隊はホースを伸ばし、放水準備！水の壁をつくり、火が他の建物に燃え移るのを防ぎます。そして、消火活動と同時に、貴重な美術工芸品や仏像などを屋外まで搬出します。



写真 京都市消防局 HP より

非常に迅速な市民レスキュー隊の方たちの手際と連携・・・文化財施設における消防活動は、消防・救急隊や文化財関係者だけでなく、周辺地域の方々の役割が非常に大きいことを学びました。文化財施設と消防署、そして、地域住民との密接な連携や協力があるからこそ、多数の文化財をかかえる京都の消防活動が支えられていることを実感するたいへんいい機会となりました。



写真 京都市消防局 HP より

■ 地域交流

高齢化がすすむ市営団地の活性化と地域連携の拠点づくり

京都橘大学国際シェアルーム

京都橘大学×京都市×醍醐中山団地町内連合会

2015年4月、醍醐中山団地に「京都橘大学国際シェアルーム」が誕生

「京都橘大学国際シェアルーム」は、京都橘大学の日本人学生と留学生が一つ屋根の下で共同生活をするルームシェア型の教育寮です。

2014年10月30日、京都市と醍醐中山団地町内連合会、および本学は、地域連携事業に関する協定を締結しました。この協定に基づき、学生がルームシェアで醍醐中山団地1階部分（京都橘大学国際シェアルーム）に住み、住民として自治会活動に参加をします。

2015年度に居住する学生は9名で、日本人学生3名、留学生が6名です。シェアルーム内に居住する学生同士が、積極的に交流しながら、異文化理解や他者との共生方法について学びます。シェアルームでの経験を活かし、卒業後にグローバル社会の中で羽ばたくことが大いに期待されています。

京都橘大学地域連携センター分室も同時に開設

地域連携事業に関する協定の締結を受け、2015年4月には醍醐中山団地内に「京都橘大学地域連携センター分室」を開設します。

同センターでは、今までに本学が山科区内で活動してきた地域連携事業のノウハウを活かしながら、醍醐中山団地や醍醐地区が活性化するよう、子育て支援や高齢者支援などの様々な支援活動を実施する予定です。

本学では、これらの活動を通して、地域活性化に貢献すると共に、学生のみなさんが実践的な学びの中で大きく成長してくれることを期待しています。



4月6日 開所式の様子



入居学生のご挨拶会の様子

■ 地域におけるゼミ活動

現代ビジネス学部 木下達文ゼミの学生

オリジナルブランド! 「香りっぷ」

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科×地元企業

約2年をかけて企画・開発

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の木下達文教授のゼミで学ぶ学生たちが、2014年1月に「香り付きリップクリーム」を独自開発しました。2014年1月15日(水)には、「香りっぷ」と名づけられたこの商品の完成発表イベントが、本学の中央広場と学生ラウンジを会場として開催されました。約2年をかけて木下ゼミの4回生17名が企画・開発したリップクリームは、本学内にある京都橘学園生活協同組合(生協)で販売が行われています。

イベント当日は、フラッシュモブというサプライズ企画や、協力をいただいた企業の担当者からの挨拶、また学生自身が制作したCMの発表会が行われました。フラッシュモブでは、一般の学生が多く集まる中央広場で突然音楽が流れ、アカペラ同好会の歌とともにゼミ生が少しずつ加わっていくという構成で、周囲で見ている学生も飛び入り参加するなど盛り上がりを見せました。



右が Tachibana (橘)、左が Sakura (桜)

右近の橘と左近の桜の香りをイメージ

「香りっぷ」は大学名の橘と、京都御所紫宸殿にある右近の橘・左近の桜をモチーフにした桜の香りをイメージしたフレグランスが特徴の2種類のリップクリームです。延べ1000人以上の学生にヒアリングを行い、男女ともに、香水に馴染みのない人でも使いやすい商品をめざして企画されています。プロジェクトを統括した榎田祥太リーダーは、「リップクリームに限らず橘の香りを使った商品は非常に珍しいものです。香りとデザインにこだわって企画し、自信を持ってご紹介できる商品ですので、ぜひ手に取ってください」と話しています。

本学生協での販売価格は、1本390円(税込)となっており、販売当初は2本セットにして、プレゼントとしても使えるようメッセージカードをつけて限定販売していました。また、2014年4月までは、一般の人にも購入できるようにインターネットでも受け付けるなどの活動も行っていました。



「香りとデザインにこだわって企画しました」と、ゼミの学生たち



フラッシュモブの様子



ちきりや
安政元年創業のお茶屋さん

■こだわり
ビルが立ち並ぶ中に隠れ家のようにこもりとある小さなお店。ちきりや、店内に入ると思わずホッとするような柔らかな香りがしてくる。ちきりやでは、その場で本格的なお茶を味わうことができ、お茶の種類や淹れ方によってそれぞれの味、渋さ、苦みが違うので、自分のお気に入りを探してみよう。四季ごとに合わせた茶葉も販売されている。また商品にもこだわっており、和紙や御旗さんの輪紙など、京都らしさ溢れるものがたくさんあるので、是非そちらにも注目してあげよう。

京都市中京区三条通室町西入衣都町45番地
TEL:075-221-0528 営業時間:9:00-17:30
定休日:日曜・祝日(別途定休有)
URL: <http://www.chikiryaya.com/>



さまざまな商品が並び 内装にもこだわっている



地下鉄「丸太町」西出口より徒歩5分



とようけ屋
山本

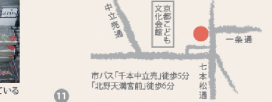
■こだわり
外観から老練の雰囲気を感じるようけ屋 山本。明治30年、北野天神門町北野下、藤に山本豆腐屋を開業。数百年を誇る「豊平気出産(とようけびめ)の神(かみ)」からヒントを得て、五穀の恵みをかき受けることができるよう、豊交…とよけ屋と名付けられた。こだわりは、作る豆腐によって味をいかにしていること。一番のこだわり商品は、家庭ではなかなか味わうことのできない厚揚げ豆腐。また、とよけ屋では新製品の開発にも力を入れており、ここできち味わえない豆腐がある。



京都市上京区七本松通一条上丸瀬町429-5
TEL:075-462-1315 営業時間:4:00-18:30
定休日:正月、お盆 それ以外は原則として無休
URL: <http://www.toyoukyaya.co.jp/>



とよけ屋の定番商品



地下鉄「千本」南口より徒歩5分

nikiniki
生ハツ橋専門店
ニギニギ

■こだわり
鴨川の上を通る四条大橋を習ってすぐのところにある、ハツ橋専門店。nikiniki、ハツ橋の新しい食べ方を提供するお店。ここでは、生ハツ橋、生ハツ橋、生ハツ橋など、自分の好みの味の生ハツ橋を遊ぶことが出来る。中に入れる食材も種類が豊富。他には、自分オリジナルの組み合わせを作ることも、生ハツ橋も個性のある商品が沢山ある。一番の人気商品は季節やイベントに合わせて、それぞれの時期にあったものをセーブして生ハツ橋。どんなものが売られているかは行ってからの楽しみ。

京都市下京区四条西木町北西向
TEL:075-254-8284 営業時間:11:00-19:00 定休日:不定休
URL: <http://www.nikiniki.co.jp/>

カラフルな生ハツ橋

季節ごとのあんやコンフィ

地下鉄「丸太町」西出口より徒歩5分

林商店
明治20年創業の焼き芋屋さん

■こだわり
このお店は明治20年創業の焼き芋専門店である。昔ながらの雰囲気があり、ご主人もとても気さくなが印象的だ。毎朝高産のさつま芋を厳選し、味付けの良さを重視し、フワッと食感にさつま芋の甘みとほんのりと塩の効いた焼き芋が味わえる。シンプルなものであっても、焼き芋のこい創業者から変わらぬ伝統を継承する。一日に焼く回数は、夏場2回、冬場1回ほどである。一回目の焼き上がりは10分30分程度、焼き立てを食べながらこの時間を過ごすのがおすすめ。

京都市下京区松原通寺町西入丸石不動之町700
TEL:075-361-1933 営業時間:9:00-19:00 定休日:年中無休
URL: <http://www.sky.sanmei.ne.jp/hayaino/>

ご主人が丁寧に焼き上げる

地下鉄「丸太町」西出口より徒歩5分

Ileno
オリジナル手帳ノート
リエノ

■こだわり
Ilenoはスペイン語で「いっぱい」の音が似ているという意味。店内には、感懐を伝えるノートや夢を叶えるスケッチブックなどの手帳本が並べられている。予約をする、カスタマイズで自分好みのノートオーダーを受けることができる。お店の代名詞ともいえる「美しいノート」という言葉には、ノートが時を越えて、思い出さずして渡されてくるといった意味が込められている。詳しくは、実際にお店を訪ねて選んでみてほしい。さまざまな思いをIlenoのノートに託し、大切な人に送ってみたいか?

京都市中京区山伏町336(室町 通船場通西南角)
TEL:075-221-4660 営業時間:12:00-19:00
定休日:水曜(イベント等で臨時休業あり)
URL: <http://ileno.jp/>

暮らし着いた各種商品の店内

地下鉄「丸太町」西出口より徒歩5分

谷口ゼミメンバー

谷口 知司
「こだわり市場」班
大橋 生奈央
生 陽 珠 実
杉本 奈緒子
高山 愛 美
谷 川 舞
堀 昭 輝
梶 岩 崎 凌
大 塚 聖 也
尾 形 成 望
木 戸 千 通
北 田 有 佳
境 元 気
清水 水 直
長 石 頼 明
中西 佑 衣
中 水 泉 穂
平 岩 舞
福 井 志 歩
福 井 美 咲
森 拓 実
(五十音順)

イラスト協力
馬 庭 尚 子

・京橋大学
現代ビジネス学部
谷口ゼミ
・ツーリズム研究会
・NPO法人コンサル

編集後記
冊子版「こだわり市場」を手にとっていただき、ありがとうございます。この春、私たちは先輩方から「こだわり市場」の運営を引き継ぎました。移行期間しながら新しいものをつづいていった部分も多く、戸惑うことばかりでしたが無事に冊子制作にあたり、ご協力いただいた皆さまに心から感謝いたします。私たちは、「こだわり市場」を通して京都や市内各店舗がもっともっと繁栄していくことを願っています。これからも「こだわり市場」をよろしくお願ひします!

「こだわり市場」班 一同
2013年11月11日

■ 地域におけるゼミ活動

現代ビジネス学部 河野良平ゼミの学生

駅ナカアートプロジェクト

KYOTO 駅ナカアートプロジェクトで、栂辻駅に卒業制作を発表

駅ナカアートプロジェクトとは、京都市営地下鉄の駅のイメージアップを図り、地下鉄を魅力的なものとして活性化するため、“大学のまち京都”ならではの取り組みとして、駅構内において芸術系大学の学生がアート作品を展開するもので、京都市内の9大学が参加しています。2013年度の同事業では、都市環境デザイン学科・河野良平ゼミの4回生、茂本阿弓さんが栂辻駅で卒業制作を発表しました。

作品は縦約270センチ・横約360センチの大きなもので、地元・山科にある勤修寺の蓮の花をデザインし、ボードに張った鏡面のシートで周辺の照明の光を反射させ、前面にかけたカーテンで変化をつける工夫を加えました。

河野ゼミでは卒業にあたって論文執筆か、作品制作のいずれかを選ぶことができます。今回の取り組みは、作品制作を選んだ茂本さんに発表の場として、担当教員の河野准教授より提案があり、実現したものです。制作にあたっては、「どうしても暗く感じる地下鉄の構内を明るくしたい、華やかにしたい」というコンセプトから出発し、構想を練っていきました。

設置当日は事前に準備した作品を現場の壁面に合うよう、カットtingをしながら貼り付けを行いました。茂本さんは、「公共の場で人の目に触れるもの、見て何かを感じてもらえるものをつくりたいと思い、取り組みました。これだけ大きな作品をつくるのは初めての経験でしたが、思い切りよく取り組みました。形にできて良かったです」と話しています。

そして、本年度（2014年度）参加作品のタイトルは「朝顔B' 珠屏風（あさがおビーズびょうぶ）」。昨年と同じく、都市環境デザイン学科河野ゼミの学生が作成しました。（リーダーは櫛間祐太君）。

この作品は、琳派の代表的な作品「朝顔図屏風」をもとに、その構図や色彩を参考にしつつ、ビーズという現代的な素材を使うことで伝統と現代の融合を試みたものです。また本学がもともと手芸学校からスタートしたことに着想を得ています。昨年同様、同チームには、京都市長から感謝状が贈られました。



京都市長から感謝状



栂辻駅構内で作品制作



ビーズという現代的素材から生まれた作品

■ 補助金

守るんジャー・TURF・げん Kids★応援隊・スポーツリハビリテーションサークル 「山科“きずな”支援事業」に選ばれる

京都橘大学学生団体×山科区

山科区では、区民による主体的なまちづくり事業を支援するため補助金を交付する「山科“きずな”支援事業」を実施しています。対象となる事業は、①自然を守り、環境美化・保全を進める事業②まちの魅力・観光を磨き高める事業③交通環境の利便性の向上につながる事業④保健・福祉・子育て支援の充実につながる事業⑤地域のつながりを強める事業⑥暮らしの安心・安全を高める事業などです。目的は、第2期山科区基本計画が目指す「心豊かな人と緑の“きずな”のまち 山科」の実現に向けて、区民、地域団体、NPO法人、大学などとの「共汗・協働」によるまちづくりの推進です。

2013年6月、32件の事業が採択され、本学では、次の3つの団体が認定されました。これらは2014年も継続事業として採択されています。

「京都子ども守り隊 ～守るんジャー～」活動強化プロジェクト

小学生（主に大宅小学校の児童）の通学路付近を巡回することにより、犯罪や事故の予防をはかる。また山科区で行われる行事にも参加する。

⇒ 22 頁に詳述

山科の子どもたちきずなを深める事業「京都橘大学 げん Kids ★ 応援隊」

山科地区の子供たち相互のつながりをつくり、深めることをめざし、地域のイベントへの参加や、区内各所で劇団の公演を行う。

⇒ 20 頁に詳述

広げよう！防災意欲と地域の絆「京都橘大学 救急救命研究会 -TURF-」

防災に対する知識と意欲を深めるために、山科区内の危険な場所等を記した地図を配布し、防災を呼びかけるなどの活動を行う。

⇒ 18 頁に詳述

山科スポーツ障害対策 project「京都橘大学 スポーツリハビリテーションサークル」

山科区内の運動部に所属している中学生を対象として、腰痛予防のための体幹トレーニングを指導する。各中学校を訪問して指導し、後日、改めて、指導後の成果の効果判定を行う。この体験を通して、運動している中学生に障害予防に対する自己管理の意識を高めてもらうことにつなげる。

⇒ 25 頁に詳述

これらの事業は、区役所の広報などを通じて様々な形で、区民に紹介されています。

■ 補助金

山科区における総合的な地域連携の展開

「臨地まちづくり」による地域活性化

平成 17 年（2005 年）度、本学は「文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」の採択を受けました。「現代 GP」とは、文部科学省が推進する、全国の大学における教育改革の支援事業の略称です。社会的要請の高い教育テーマに取り組む大学などを選定し、重点的に財政支援をすることにより、これからの時代を担う優れた人材を養成することを目的とするものでした。2005 年度の「現代 GP」には、全国の国公立大学から 509 件の申請があり、本学を含む 84 件が採択されました。本学が採択された取組は、『「臨地まちづくり」による地域活性化』プログラムで、地元山科区における全学をあげた総合的な地域連携の開始を告げるものでした。

「臨地まちづくり」による地域活性化とは

情報技術の急速な発展や経営環境の激しい変化のもとで、現代社会では知識の陳腐化が速まり、氾濫する情報のなかから価値ある情報を選択し、社会が求める新しいものを創造することが重要になっています。そのため、大学教育には、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し問題を解決する力をもった人材の育成が求められています。そのような人材育成を進める上で、地域と大学が協力し、地域を教育のフィールドとして、地域文化や地域産業の活性化を進めるなかで、学生が地域固有の問題を発見し、問題を解決していく能力を身につけることが重要です。「臨地まちづくり」とは、地域に生きる人々が主体的に地域を調査し、課題を発見し、様々な資源を再評価・活用する実践的な手法のことをいいます。まちづくりの現場では学生や研究者が立ちあい、共に学び、刺激しあいながら、地域課題の対処療法を模索、根治治療をめざすものでした。

山科区域を教育のフィールドとして

現代ビジネス学部では、2001 年 4 月の開設（前身は「文化政策学部」～2007 年）当初より、地域の教育力に着目してきました。産業、行政、住民、大学、地域外機関という「産公民学際」連携・協働のもとで、臨床医学にならって「臨地まちづくりの研究と教育」の方法に基づき、地域資源の再評価や歴史的商店街・伝統産業の振興に学生が関わることで、地域の活性化を促し、社会や地域の要請に応えうる人材育成に取り組んでいます。2005 年からの 3 年間のプロジェクトでは、山科区域を教育のフィールドとして、地域資源の掘り起こし、商業・観光振興と商店街活性化の取組、山科地域を舞台とした文化の創造環境づくり、清水焼などの伝統産業の振興と地域の活性化などを推進してきました。

主な取り組みの柱は、以下の通りです。

(1) 地域資源の掘り起こし

これまでに蓄積された地域資源情報や古い写真等の情報を編集し、ホームページやメールニュース等を制作することで、地域活性化のためのネットワークの構築をめざす。

(2) 商業・観光振興と歴史的商店街活性化の取組

山科駅周辺の商店街における詳細調査を行い、活性化提案や情報誌の発刊、イベント企画などを行う。「産公民学際」の連携・協働方式で、山科地域の商業・観光振興の研究に取り組む。

(3) 清水焼をはじめとする伝統産業の振興

清水焼をはじめとする京都における伝統産業の振興策および、山科区内にある伝統産業関連団地の活性化のあり方を研究する。

(4) 地域の文化創造の環境づくり

山科地域を舞台として、地域の人々や諸団体との協働により、様々な文化活動を展開。文化創造の環境づくりに取り組む。

2005～2007年度「現代GP」で取り組んだプログラム

2005年度から3年間で取り組んだプログラムは、以下のとおりです。

■ 2005年度

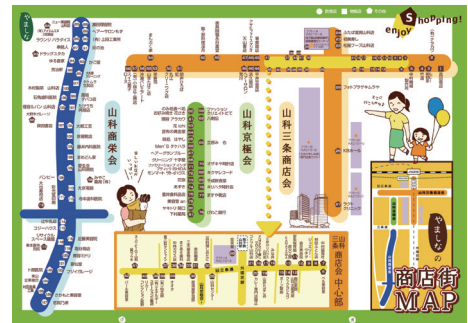
山科駅周辺地域診断マップ制作
山科情報タウン誌制作
山科駅前の商店街診断調査の実施
まちづくり先行事例調査の実施
「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」への協力
現代GPシンポジウムの開催
「全国まちづくり・学生インターゼミナール」の開催

■ 2006年度

山科駅周辺マップ制作
まちづくり文化論、まちづくり事例研究の開講
地域資源の掘り起こし調査
山科地域情報タウン誌の発刊
伝統産業関連商品開発の研究
実施取組の映像資料を活用しての事前学修教材作成
清水焼団地主催〈陶器祭〉への学生参画
まちづくり先行事例調査
地域のイベントへの学生参画
現代GP学外評価委員会・学内自己点検評価委員会の開催

■ 2007年度

地域資源の再評価
『まちづくり文化論』の開講
清水焼団地マップの制作
伝統産業関連商品開発とマーケティング調査
清水焼団地展示場の外観整備のあり方研究
清水焼団地主催〈陶器祭〉〈染陶祭〉への学生参画
まちづくりシンポジウムの開催
まちづくり先行事例調査
事業効果の評価・分析
ドキュメンタリーの制作
現代GP学外評価委員会・学内自己点検・評価委員会の開催



■ 補助金

「大学間連携共同教育推進事業」採択事業

「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」

平成 24 年度文部科学省

活動の概要

平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業で選定された「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構築と教育の現代化」は、龍谷大学を中心として本学を含めた京都府下の 9 大学が連携し、大学と地域社会との組織的な連携（＝大学地域連携）を深化させつつ、大学・大学院教育の本体部分に地域社会との連携を埋め込んでいくという教育の現代的で普遍的な課題を解決することを目的としています。

また、地域社会からの要請に応える地域公共人材の育成に資する大学間の共同教育プログラムを地域資格制度のフレームに準拠して構築していきます。

活動の内容

本補助事業は、「地域公共人材」を共通する人材育成目標として掲げ開発した修士レベルの地域資格制度と資格認証スキームを基本としており、その資格制度を学部レベルも含めたものに拡充し、また、アクティブ・ラーニングを柱とした地域連携教育プログラムを開発することによって、大学の立地がない地域における大学地域連携のモデルを構築することを重点的な課題としています。

本学では下記、6 つのプロジェクトを実施し、①企画から実施までの全てを学生に経験させるもの、②座学と実習の組み合わせ、③教職員や学生以外と連携するという教育方法を開発しています。

① 地域資源を利用した第 6 次産業的ビジネス展開プログラム

都市文化資源論を通じて第 6 次産業育成手法を応用した形で学生と地域産業とを結びつけられるような連携事業（授業）を実施。学生自らが京都の伝統産業から現代産業に至る多様な都市（地域）を見つめながら社会課題・地域課題の基礎研究を行うとともに、受講生らが志向する新たなビジネスモデルのプランニング段階から実施し、最終的には 1 つの成果品（編集物や試作物等）をプロデュースするまでの研究実践型教育。

② 産学連携による地域産業の活性化プログラム

京都市山科区を中心とした伝統産業地区との連携により、伝統工芸品の商品企画やマーケティングリサーチを通してマーケティングの実践教育の開発を実施。また、伝統産業をベースに他の産業にも対象を広げ、大学、産業、学生が連携できる関係づくりを今も継続している。

③ 歩いて楽しいまち京都観光プログラム

ガイド体験という職能訓練を通して、本学学生が京都観光ガイドのわざと心を学ぶ場をその上で、現場で実践する活動を通して、教室内では得られない緊張感を体感し、社会人基礎力に不可欠なコミュニケーション能力を養成する方法を開発。

④ コミュニティアーツを活用したまちの繋がりと文化創発プログラム

京都市山科区を中心に、アーツマネジメント手法を用いた文化的資源の発掘と開発、それらを用いた多彩なアーツ表現などを通じて、地域社会の繋がりを広げコミュニティ意識を深めるためのワークショップやイベントを企画・運営することで、アウトサイダーアーツによる文化創発地域実践型教育の開発を行っている。

⑤ 地域住民参加型デジタルアーカイブを担う公共人材育成プログラムの開発

「デジタルアーカイブ開発のための基礎的な知識と技能の修得」をテーマとして取り組み、ICT に関する知識、技術の中で、ホームページ作成などの情報公開について学ぶことで、今後の活動への基盤づくりを実施。

⑥ 都市要素のデザインサーベイを通して地域環境を検討するプログラム

まちづくりの中での建築的な視点、景観について地域環境を構造的に理解する能力を育成するために、特色ある街並みの視察やまちづくり活動の学習、そして街並みのデザインの取りまとめを行っている。

活動の成果

本事業の実施によって、今年度より、本学で初級地域公共政策士 文化プロデュース力養成プログラムをスタートすることになりました。

都市や地域にある文化財や文化施設、文化的景観、芸術などの文化的資源に着目し、それらを発掘または再発見する能力を育て、文化産業やまちづくり、都市観光、アーツマネジメント、文化行政などの幅広い領域から社会的課題にアプローチし、プロデュースする能力を養成することを目的としています。

このプログラムでは、フィールドワークを中心に、都市や地域の様々な文化的資源についての知識、そして幅広くそれらを対象として行われるまちづくりや観光、文化産業等の政策についての知識や能力を養成し、分析・評価する能力の基盤を作ります。

2014年度 文化プロデュース力養成プログラム開講科目一覧

科目群	科目名	ポイント	学 年	開講時期	備 考
A	文化プロデュース入門Ⅰ	2	1	前 期	必 修
B	社会調査論	2	1	前 期	B 科目群から1科目 (2ポイント) 以上選択
	文化経済論	2	1	後 期	
	自治体経営論	2	2	後 期	
C	観光情報論	2	2	前 期	C 科目群から1科目 (2ポイント) 以上選択
	文化施設マネジメント論	2	2	集 中	
	空間デザイン演習	2	3	後 期	
D	都市文化資源論	2	3	前 期	D 科目群から1科目 (2ポイント) 以上選択
	まちづくり論	2	3	後 期	
	イベントデザイン論	2	3	後 期	
A~D の合計					6科目 12ポイント以上

今後の目標・課題

平成 27 年度は、これまでに資格教育プログラム開発を通じて進めてきた地域連携事業を大学間で共有することです。そして、資格教育プログラムとして正課に組み込むことができたアクティブ・ラーニングの評価を行い、カリキュラムの改善を目指します。






京都「おもてなしの心」キャリア開発特別セミナーの実践編として、観光ガイド実習を実施しました。
(都市環境デザイン学科の学生)

協定・連携

自治体等との連携協力に関する協定の締結

主なもの

協定（連携）先	締結日		締結事項	備考
総本山醍醐寺	1995年	1月	本学と総本山醍醐寺は、寄付講座の実施を中心とした学術交流協定を締結。	学術交流
医療法人社団洛和会	2004年	1月	本学と医療法人社団洛和会は、看護職者養成における教育・研究包括協定を締結。	教育・包括
洛東高校	2004年	9月	本学と洛東高校は、高大連携教育連携協定書に調印。	教育連携
財団法人京都市女性協会	2006年	6月	本学と財団法人京都市女性協会は、包括協定を締結。	包括
京都市・米原市	2006年	4月	本学大学院と京都市京都市、滋賀県米原市は、学術・教育交流協定提携を締結。	学術・教育交流
福井県小浜市	2006年	4月	本学大学院と福井県小浜市は、学術・教育交流協定を締結。	学術・教育交流
滋賀県東近江市	2007年	3月	本学と滋賀県東近江市は、文化政策関連事業推進に係る協力を締結。	文化政策
京都府教育委員会	2007年	4月	本学と京都府教育委員会は、相互に連携協力して研究協議する包括協定を締結。	包括
大阪府三島救命救急センター	2008年	12月	本学と大阪府三島救命救急センターは、学術・教育交流協定書を締結。	学術・教育交流
滋賀医科大学	2012年	1月	本学と滋賀医科大学との間で、教育・研究に関する包括協定を締結。	包括
京都第二赤十字病院	2013年	1月	本学と京都第二赤十字病院は、看護師養成や教育研究に関する包括協定を締結。	包括

山科区	2013年 9月24日(火)	9月	<p>本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進 	 <p>地域連携・協力に関する協定</p>
京都市・醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日(木)	10月	<p>京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアールームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康及び福祉活動 	 <p>連携協定</p>
滋賀県草津市	2014年 12月25日(木)	12月	<p>本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業 	 <p>子育て支援・包括協定</p>

2014年度の活動

2014年度学部・学科別活動実績

① 地域を対象とした教育活動

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
文学部	日本語日 本文学	地域課題研究	1回生 a～c	安達太郎	55名	東山区 (鳥辺野界限)	六波羅蜜寺、六道珍皇寺にてフィールドワークを実施。講義後にまとめの学修と、事後レポートを提出。
文学部	日本語日 本文学	地域課題研究	同上	蒲 豊彦	55名	山科区	一燈園にてフィールドワークを実施。講義後にまとめの学修と、事後レポートを提出。
文学部	日本語日 本文学	地域課題研究	同上	林久美子	55名	滋賀県大津市	石山寺にてフィールドワークを実施。講義後にまとめの学修と、事後レポートを提出。
文学部	日本語日 本文学	地域課題研究	同上	辻本千鶴	55名	伏見区	醍醐寺にてフィールドワークを実施。講義後にまとめの学修と、事後レポートを提出。
文学部	歴史	地域課題研究	研究入 門ゼミ a・d	増渕 徹 小野 浩 王 衛明	30名	八坂の塔・建仁 寺・六波羅蜜寺 など	京都の歴史について理解を深めさせることを目的とし、左の地域にてフィールドワークを実施。実施に先立って学生にレジュメを作成してもらい、実施の後、今度はパワーポイントでスライドを作成してもらい、実地踏査の成果を報告してもらった。
文学部	歴史	地域課題研究	研究入 門ゼミ b・e	酒井一臣 松浦京子 高久嶺之介	31名	琵琶湖疏水記念 館・南禅寺・平 安神宮など	京都の歴史について理解を深めさせることを目的とし、左の地域にてフィールドワークを実施。実施に先立って学生にレジュメを作成してもらい、実施の後、今度はパワーポイントでスライドを作成してもらい、実地踏査の成果を報告してもらった。
文学部	歴史	地域課題研究	研究入 門ゼミ c・f	尾下成敏 南 直人	30名	東山区(京都国 立博物館正門付 近・豊国神社・ 方広寺・馬町空 襲跡・三十三間 堂)	京都の歴史について理解を深めさせることを目的とし、左の地域にてフィールドワークを実施。実施に先立って学生にレジュメを作成してもらい、実施の後、今度はパワーポイントでスライドを作成してもらい、実地踏査の成果を報告してもらった。
文学部	歴史	日本史演習Ⅱ		尾下成敏	17名	上京区(北野天 満宮・御土居跡・ 紙屋川・上七軒)	京都市上京区の北野天満宮周辺の建築物や遺跡などの調査を行って、江戸時代の京都史について理解を深めさせることが目的である。
文学部	歴史	現代史基礎ゼミⅠ	aクラス+ b クラス	酒井一臣 南 直人	26名	立命館大学平和 ミュージアム	立命館大学平和ミュージアムを見学して、日本及び世界の現代史の最重要テーマである戦争と平和の問題に関して考察を深めた。
文学部	歴史	日本史演習Ⅳ		高久嶺之介	8名 (ゼミ有志)	伏見区	2014年12月13日、御香宮、伏見奉行所跡など鳥羽伏見の戦いの現地フィールドワーク、さらに伏見の酒造業見学、三栖閣門など伏見の運河関係史跡を調査。
文学部	歴史	研究入門ゼミ	研究入 門ゼミ a・d	増渕 徹	17名 ×2	京都市・宇治市	『都名所図会』を参考に、名所とされた寺社を尋ねて現在の姿と比較し、京都や宇治の歴史性の特徴を理解する取り組みを行った。
文学部	歴史	京都の歴史と文化遺産	集中	増渕 徹	45名	京都市	京都市文化財保護課の技師とともに、京都のさまざまな歴史遺産について、その特徴や見方、文化財保護の課題などについて知見を深めてもらう授業を行った。
文学部	歴史	京都の歴史と文化遺産	集中	増渕 徹 一瀬和夫 小林裕子 登谷伸宏		京都市・宇治市	昭和大学(東京)の学生を対象に、京都及びその周辺の各分野の歴史遺産について解説し、京都の文化に対する理解を深める授業を行った。
文学部	歴史遺産	地域課題研究	a/b/c	学科教員全員	55名	京都市	京都三大祭り(葵祭・祇園祭・時代祭)について、担当グループごとに事前学習・見学・事後総括を行い、12月に研究発表会実施。
文学部	歴史遺産	地域課題研究	a/b/c	学科教員全員	55名	三千院・延暦寺	地域文化理解のための現地フィールドワークを実施。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学演習Ⅰ・Ⅱ	b	有坂道子	10名	伏見区	醍醐寺および内海家(醍醐和泉町)所蔵文書を用いた古文書解読を行う。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
文学部	歴史遺産	歴史遺産学総合演習Ⅰ	a/b/c	一瀬和夫 小林裕子 有坂道子 登谷伸宏	55名	大阪府高槻市	今城塚古墳周辺の史跡整備状況およびサイトミュージアムの実地見学を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学総合演習Ⅰ	a/b/c	一瀬和夫 小林裕子 有坂道子 登谷伸宏	55名	大阪府和泉市	大阪府立弥生文化博物館・池上曽根遺跡の見学と土器作りを行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学総合演習Ⅰ	a/b/c	一瀬和夫 小林裕子 有坂道子 登谷伸宏	55名	京都市	京都大学所蔵資料・登録文化財および百万遍知恩寺の見学を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学基礎ゼミⅠ	b	有坂道子	11名	京都市	京都文化博物館東寺百合文書展を見学する。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学演習Ⅰ	d	有坂道子	10名	大阪市	大阪市立東洋陶磁美術館を見学（本学卒業の学芸員による展示）する。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学演習Ⅱ	d	有坂道子	9名	京都市	京都国立博物館知新館を見学する。
文学部	歴史遺産	文化財学演習Ⅳ	b	有坂道子	12名	京都市	京都国立博物館および智積院を見学する。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学実習Ⅱ		登谷伸宏	26名	大阪府泉佐野市	泉佐野市長南校区における寺社建築の調査を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学実習Ⅱ		登谷伸宏	26名	滋賀県高島市	武曽学校（高島市指定有形文化財）の建造物調査を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学実習Ⅱ		登谷伸宏	26名	滋賀県犬上郡多賀町	胡宮神社の歴史遺産総合調査（古文書・彫刻・建築）を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学実習Ⅱ		登谷伸宏	26名	京都市伏見区	醍醐寺成身院（女人堂）の建造物調査を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学演習Ⅰ	b	登谷伸宏	16名	法隆寺・法起寺 (奈良県斑鳩町)	法隆寺・法起寺の歴史的建造物の実地見学を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学実習Ⅳ	b	登谷伸宏	13名	円教寺 (兵庫県姫路市)	円教寺不動堂の建造物調査を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学基礎ゼミⅡ	c	登谷伸宏	21名	豊国神社（京都市東山区）など	豊国神社・三十三間堂・方広寺・妙法院・豊国廟においてフィールドワークを行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産研究Ⅰ		一瀬和夫	55名	堺市	仁徳陵古墳を見学する。
文学部	歴史遺産	歴史遺産調査実習		一瀬和夫	25名	大阪府泉佐野市	日根野荘遺跡・大木地区「蓮華寺」発掘調査を行う。
文学部	歴史遺産	歴史遺産調査実習		一瀬和夫	25名	兵庫県東六甲	甲山刻印石群 G・E 地区調査を行う。
文学部	歴史遺産	研究入門ゼミⅠ・歴史遺産学総合演習Ⅰ	a/b/c	小林裕子	54名	東寺	金堂・講堂の見学を中心に平安京における宗教について理解を深める。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学演習Ⅰ・歴史遺産学実習Ⅲ	C	小林裕子	17名	京都国立博物館	狩野山楽・山雪展を見学する。
文学部	歴史遺産	歴史遺産学演習Ⅰ・歴史遺産学実習Ⅲ	C	小林裕子	17名	龍谷ミュージアム	研究員によるミュージアムトークおよび館の歴史についての講義を拝聴。
文学部	歴史遺産	博物館学概論		小林裕子	110名	佐川美術館	展覧会（北斎展）見学を通じたミュージアム施設や運営についての見学会を行う。
文学部	歴史遺産	文化財学演習Ⅳ	C	小林裕子	15名	竹生島	地域文化財の実地見学。
人間発達学部	児童教育学科 英語コミュニケーション	地域課題研究		倉持祐二 アンガス ノーマン 他	人間発達学部 1回生 全員	山科・醍醐	人間発達学部2学科合同開講。最初の4コマでこの授業の計画の提示と3名のゲストスピーカーによる講義。最後の4コマで発表の準備と学科別の発表。発表グループは26。児童教育学科はボランティア活動、ちびっこランドを基礎にした発表。英語コミュニケーション学科は山科・醍醐の調査にもとづき外国人観光客を想定したプレゼンテーション。
現代ビジネス学部	現代マネジメント	地域課題研究		今井まりな・今久保幸生・片岡裕介・河野充央・阪本崇・高原正興・高山一夫・李在鎬	130名	山科区	山科地域を対象として統計情報を用いPBLに基づくグループ学習を行う。

学部	学科	科目名	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	地域課題研究		織田直文	130名	山科・醍醐	地域でフィールドワークを行い、課題を発見し解決方法を探る。（清水焼団地など）
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	地域課題研究		松本正富	130名	山科・醍醐	地域でフィールドワークを行い、課題を発見し解決方法を探る。（地域の建築を学ぶなど）
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	地域課題研究		木下達文	130名	山科・醍醐	「こどもと地域環境」をテーマに外部講師による講義と課題ワークショップを行う。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	都市文化資源論		木下達文	25名	京都市	世界文化遺産の「和食」と「京料理」をテーマに資源発掘を実施。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	専門演習		木下達文	18名	京都市	京都在住のアーティストによる作品をセレクトしたショップの企画・展開。
看護学部	看護	プライマリケア実習Ⅰ・Ⅲ		小野塚元子	2回生 100名、 4回生 95名	本学中央体育館	山科区老人クラブ連合会の会員の方を対象に、2回生が「体力測定」、4回生が「健康教育」を実施。本年度は、122名の方に参加協力いただいた。
看護学部	看護	プライマリケア実習Ⅰ・Ⅱ		小野塚元子	2回生 100名、 3回生 95名	本学中央体育館	山科区老人クラブ連合会の女性委員に協力いただき、会員の中の一人暮らし高齢者の方への同行訪問を行う。訪問先高齢者は、学生のプライマリーファミリーとなっただき、学生は2回生後期から3回生前期にかけて、2回の訪問を実施。
看護学部	看護	ライフサイクル論実習		堀 妙子 小野塚元子	1回生 85名	山科区	ライフサイクル論実習として、山科区老人クラブ連合会主催の「美化ウォーキング」に参加。1回生全員が、老人クラブの方と共に、山科区役所から中央公園まで、ゴミを拾いながらウォーキングを行う。
看護学部	看護	プライマリケア実習Ⅰ		小野塚元子	2回生 100名	京都、大阪	プライマリケア実習Ⅰの産業保健の場として、地域の企業で実習を行う。本年度は、全国土木建築国民健康組合、大日本塗料、ワコール、第一紙行、洛東タクシー、京都科学、日通など。学生はこの中の2施設で、1日ずつ実習を行い、産業の場での看護の役割について考える。
健康科学部	理学療法	地域課題研究		村田 伸 他5名	17名	滋賀県野洲市	392名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や足の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を学生が実施。
健康科学部	心理学科	マーケティング調査演習		永野光朗	13名	滋賀県守山市	守山市中心市街地に位置するスーパーマーケットで2日間にわたり来店者を対象とした面接調査を実施。245名の守山市民について、日常的な購買行動の実態や、利便性についての意見などのデータを収集する。

② 地域を対象とした研究活動

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
文学部	歴史	北野天満宮文書の研究	尾下成敏	京都市	本学所蔵の北野社宮仕沙汰承仕家資料の目録を作成し、本学発行の『京都橘大学大学院研究論集 文学研究科』12号（2014年3月発行）に「京都橘大学所蔵 北野社宮仕沙汰承仕家資料目録」というタイトルで掲載した。
文学部	歴史	中近世移行期における竹内門跡と北野社	尾下成敏 細川涼一	京都市	本学所蔵の北野社宮仕沙汰承仕家資料や、北野社をはじめとする京都の寺社と深いかかわりを持つ比留田家の所蔵文書（本学寄託文書、名称は「比留田家文書」）から、興味深い文書をピックアップし釈文を作成した。なお、その成果は『京都橘大学収蔵文書五〇選』（2015年2月発行予定）として公表した。
文学部	歴史遺産	内海家文書の整理	有坂道子	醍醐	醍醐和泉町の内海家に伝来する古文書の整理を行い（2002年度より継続）、目録作成作業を行う。最終巻（第3冊）となる目録の刊行は2015年度を予定。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	震災文化施設被害復興状況の調査研究	木下達文	岩手・宮城 福島	文化施設の被害および復興していく状況を継続的に調べている。
看護学部	看護	高齢者の英知を活かした「学びの場」の開発研究に関する調査	松本賢哉	山科区老人クラブ 連合会	活動力、自己効力感、精神的健康度などをアンケート調査をした。（現在集計中）
健康科学部	理学療法	野洲市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究	村田 伸 他5名	滋賀県野洲市	392名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を行った。これらの結果から、高齢者の健康維持ならびに向上に関する実態を明らかにすることにより、介護予防プログラムの基礎資料を作成した。
健康科学部	心理	男性を対象とした臨床心理学的子育て支援プログラムの開発	濱田智崇 青木 剛 井上裕樹	京都・滋賀	心理臨床センター主催「パパとママのこころ育て広場」において子育て支援プログラムの実践を積み重ねながら、子育て意識調査を計画している。大宅保育園での予備調査、草津市での本調査を想定し、質問紙調査の内容を、研究協力者と準備会議を開催し、検討を行っている。

③ 地域貢献 / 社会貢献活動

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
文学部	歴史	京都アスニーセミナー	尾下成敏	無	京都府	「織田信長の死—古文書と日記から見た天下人の最期」というテーマで講演した。一次史料から見た本能寺の変の経過について語った。
文学部	歴史	八幡市リカレント教育推進講座	尾下成敏	無	京都府	八幡市からの依頼をうけ、「信長を脅かした篠原長房と三好康長」というテーマで講演した。織田信長入京前後の政治・社会史を扱ったものである。
文学部	歴史	ラポール学園「日本史講座」	尾下成敏	無	京都市	「清須会議」というテーマで講演した。織田信長死後の織田家の内紛を扱ったものである。
文学部	歴史	女性歴史文化研究所第23回シンポジウム	松浦京子 高久嶺之介	有 (7名)	京都府	松浦は「福祉国家以前のイギリスにおいて貧民はいかに看護されたか」、高久は「明治の村は病気にどう対応したのか—京都近郊農村を対象に一」というテーマで講演した。なお、本シンポジウムは、「京の府民大学対象講座」の一つである。
文学部	歴史	京都市歴史資料館評議員	高久嶺之介	無	京都市	2014年度中、評議員を務めている。
文学部	歴史	向日市歴史的風致維持協議会委員	高久嶺之介	無	向日市	2014年11月以降、評議員を務めた。
文学部	歴史	京都高齢者大学	高久嶺之介	無	京都府	「明治期京都の外国人観光と外国人皇族たち」というテーマで講演した。実施場所は、京都高齢者大学(学校法人関西文理総合学園長浜バイオ大学京都キャンパス烏丸学舎内)である。
文学部	歴史	京都アスニーセミナー	増淵 徹	無	京都府	市民を対象に古代の病氣と医療に関して講演した。
文学部	歴史	史跡高麗寺跡整備指導委員会	増淵 徹	無	木津川市	史跡高麗寺跡の整備事業に協力した。
文学部	歴史	宇治市文化財保護委員会	増淵 徹	無	宇治市	宇治市における文化財の調査・指定に協力した。
文学部	歴史	史跡宇治川太閤堤跡整備指導委員会	増淵 徹	無	宇治市	豊臣秀吉が築造を命じたと考えられる宇治川堤防の調査及び整備に関する指導を行った。
文学部	歴史	史跡石清水八幡宮境内保存管理計画策定委員会	増淵 徹	無	八幡市	史跡に指定された石清水八幡宮境内の適切な管理とその実施を目指す計画策定の指導を行った。
文学部	歴史	亀岡市文化的景観検討委員会	増淵 徹	無	亀岡市	保津川周辺の亀岡地域における文化的景観に関する調査と価値の抽出に関する取り組みを指導した。
文学部	歴史遺産	文化財研修会(消防訓練)	一瀬和夫 小林裕子 有坂道子 登谷伸宏	2回生全員	山科区	毘沙門堂において、山科消防署・地域消防団の方々と共に文化財防災訓練を実施。
文学部	歴史遺産	山科カレッジ講師	小林裕子		山科区	随心院の歴史と美術について講演
人間発達学部	児童教育	げん Kids ★応援隊		学生 25名	大学周辺、 勤修小学校、 大宅地域	学内外で年間10回の企画。そのなかには、勤修小学校のキャンプ・夏祭りの協力、地蔵盆で人形劇などの出演、山科おやじフェスタへの参加が含まれる。
人間発達学部	児童教育	京都子ども守り隊 守るんジャー			大宅小学校 周辺	大宅小学校の下校の見守り活動、土曜夕方方のパトロール(大宅小学校区)、地域活動への参加(もちつき大会、サンタ大行進)、エコアクション(山科区役所からの依頼)、認知症の方々へのサポート(まごころデイサービス)
人間発達学部	児童教育	幼稚園での演奏活動	佐野仁美	学生 14名	山科区	音楽の関心を持つ学生の集まる3回生佐野ゼミの活動。6月に1回、幼稚園にて演奏活動を行う。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	約10名	滋賀県守山市	守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。まち全体による相乗効果があった。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の運営	木下達文	約10名	滋賀県	びわ湖ホールが行うイベントの子ども部門の運営支援を行う。約3万人来場する。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	「やましな駅前陶灯路・バル」の運営	木下達文	約80名	山科区	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今回は商店街イベントも同日開催した。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	山科カレッジ講師	木下達文	無	山科区	芳治軒、はいから農園などを訪問し、山科と食についての講義をする。

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	大好き!“やましな”魅力発信プラットフォーム	木下達文	無	山科区	アドバイザーをつとめる。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	KYOTO 駅ナカアートプロジェクト	河野良平	約 10 名	山科区	京都市交通局主催による地下鉄・柳辻駅改札周辺の壁面デザインプロジェクト
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	醍醐中山団地改修計画	松本正富 河野良平	約 10 名	伏見区	京都市営醍醐中山団地を本学留学生用の学生寮（シェアルーム）に改修する計画を立案。
現代ビジネス学部	都市環境デザイン	山科カレッジ講師	小暮宣雄	無	山科区	第 6 回「山科の未来を考える」で、アートの観点から事例報告を行う。
看護学部	看護	山科区共汗型まちづくり支援事業のフリースペースの活性化会	小野塚元子	無	山科区	フリースペースで健康相談を開催し参加者を増やしている。
看護学部	看護	大津市老人クラブ連合会体力測定	松本賢哉	有	滋賀県大津市	大津市の各学区で行われている体力測定会の補助。
看護学部	看護	山科こころのふれあい夏まつり	松本賢哉	学生 7 名	山科区	実行委員参画。
看護学部	看護	第 4 回障がい児支援講座	小野塚元子	有	山科区	本学の学生を対象として実施している。東総合支援学校の先生方を講師としてお招きし、本学の学生を対象として、障がいのある子どもに対する関心を高めるため、講演と体験学習を企画した。本年度の参加者は、39 名である。
看護学部	看護	市民スクール 21 (大宅学級)	小野塚元子 西村美八	大宅地域女性会	山科区	H25 年度の大宅学級の学習計画の一環として依頼された。
看護学部	看護	いちごカフェ	小野塚元子 深山つかさ 鈴木久義	ボランティア 3 名	山科区	老人保健施設いわやの里において、毎月 2 回の「いちごカフェ」を開催している。いわやの里の利用者、介護をしているご家族、地域の方など参加いただいた。
看護学部	看護	第 10 回 たちばな健康相談	小野塚元子	ボランティア 37 名	山科区	大学祭の時に、教員と学生ボランティアで、身体計測、健康相談、骨密度測定等を実施している。今年度で第 10 回の実施になった。参加者は 202 名である。
健康科学部	理学療法	野洲市在住高齢者の健康増進に向けた調査研究	村田 伸 他 5 名	17 名	滋賀県野洲市	392 名の野洲市在住の高齢者を対象に、握力や脚の筋力・足の把持力・バランス能力・柔軟性・歩行速度など運動機能面に関する項目と、認知機能検査や質問紙から聞き取り方式で行う心理検査を実施した。その結果をもとに、高齢者自身が健康度をセルフチェックできる「高齢者向け健康づくりガイド」を作成し、野洲市および参加高齢者に配布した。
健康科学部	心理	保育コンサルテーション	日比野英子	無	山科区	大宅保育園について、統合保育に関するコンサルテーションを 8 回実施した。
健康科学部	心理	保育士研修会講師	日比野英子	無	山科区	大宅保育園について、保育士対象の研修会講師を 1 回担当した。
健康科学部	心理	発達障害児への学生による支援	日比野英子 濱田智崇 井上裕樹	学生 2 名	山科区	大宅保育園について、発達障害児への支援として、学生が個別対応の補助を行い、教員はそのスーパービジョンを実施した。
健康科学部	心理	パパとママのこころ育て広場	濱田智崇 井上裕樹	学生のべ 40 名	京都市 大津市	心理臨床センター主催事業。地域の未就学児とその保護者を対象に、土曜日の午前中、心理臨床センターブレイクルームなどでグループ活動を行った。子育ての悩みを共有したり、臨床心理士からの助言を行ったりし、今年度は 8 回実施。保護者のべ 35 名、子どものべ 44 名の参加があった。学生はボランティアとして参加し、終了後のカンファレンスで、子どもの発達やかかわり方などについて学習した。
健康科学部	心理	臨床心理セミナー	青木 剛 松下幸治 中西龍一 ジェイムス朋子	無	京都・滋賀 大阪等	心理臨床センター主催事業。臨床心理士や周辺領域の専門職を対象とするリカレント講座。「フォーカシング」「臨床心理士である前に」「ゲシュタルト療法入門」「精神分析的な心理療法入門」の 4 回実施し、のべ 22 名の参加があった。
健康科学部	心理	対人援助職セミナー	松下幸治	無	京都・滋賀 大阪等	心理臨床センター主催事業。対人援助職を対象とし、職場の実践で役立つ臨床心理学を体験的に学ぶ機会を提供した。6 回実施し、のべ 38 名の参加があった。

学部	学科	活動名	担当	学生参加の有無 その人数	対象地域	活動の内容や成果
健康科学部	心理	不登校児の支援ボランティア	井上裕樹	学生 8 名	兵庫県立但馬やまびこの郷(不登校児童生徒の支援施設)	不登校児童生徒対象とした 4 泊 5 日の集団宿泊体験活動に参加し、その活動を通して、不登校児童生徒の学校生活への適応や社会的自立に向けた支援を体験的に学んできた。また、この活動に参加する学生に対して、事前研修と事後報告会を実施し、彼らの心理臨床学の体験的な学びをさらに深めるための作業を行った。
健康科学部	心理	山科保健センター 3 歳児健診	濱田智崇	無	山科区	山科保健センターが実施する 3 歳 3 ヶ月児健診において、心理相談を担当した。はっ筒障害の疑いや、保護者に子育てで不安のあるケースに個別対応し、必要に応じて本学心理臨床センターの情報を提供した。
健康科学部	心理	山科保健センターすくすくクラブ講師	濱田智崇	無	山科区	山科保健センター主催、4 ヶ月～8 ヶ月の赤ちゃんと保護者を対象とする「すくすくクラブ」において「子育てを楽しむために」と題して講演を行った。6 月と 11 月に実施した。
健康科学部	心理	子育て支援講演会	濱田智崇	無	大宅学区	大宅保育園主催の子育て支援講演会で講師を務めた。「忙しいお父さんのためのイクメン講座」「子どものイヤイヤにどうつきあうか」「子育て期の親子関係・夫婦関係」の 3 回実施した。
健康科学部	心理	京都市「親と子のためのこころの電話」研修会講師	濱田智崇	無	京都市	京都市「親と子のこころの電話」の相談員を対象として、京都市生涯学習センターにて研修を行った。
健康科学部	心理	内閣府「男性相談研修会」講師	濱田智崇	無	全国	内閣府主催の「男性相談研修会」が東京と京都で各 1 回開催され、全国（京都・滋賀を含む）の自治体関係者のべ 57 名が参加。国が第 3 次男女共同参画基本計画に従って推進している、男性向けの相談窓口の拡充のため、開設や運営の留意点等について講義を行った。

「つながる」 & 「News Letter」 バックナンバー紹介

地域連携センターは、地域貢献活動や公開講座や地域に関連する研究などを紹介し、発信する媒体として、年間2回広報誌「つながる」を発行しています。2011年度以前は、地域連携センターの前身である文化政策研究センターが、広報誌「News Letter」を発行していました。

「つながる」バックナンバー 目次一覧 (第6号～第1号)

バックナンバー	発行日	目次
第6号	2015年3月20日発行	<ol style="list-style-type: none"> Interface 実践の知 第6回 山科盆地を縦断した石垣石材 一伏見城と山科 (大塚・小山) 石切場をつなぐ山科川 一瀬 和夫 本学文学部教授 Management & Design 山科をまなぶ～開催報告 京都橋大学、山科区 第3回橋セッション 醍醐地域との連携を考える 一文化・観光・まちづくりー 長瀬 福男 總本山醍醐寺真言宗醍醐派宗務本庁公室室長 中井 秀和 京都市伏見区役所醍醐支所地域力推進室まちづくり推進課長 谷 亮治 本学客員講師、京都市文化市民局地域自治推進室 まちづくりアドバイザー 京都モダンイズム建築を訪ねて 第16回 淡交社ビルディング 河野 良平 本学現代ビジネス学部准教授 Interview とともに 第6回 人が集う“まち”と駅を、もっと楽しく、もっと元気に！ 学生と地下鉄の駅のコラボレーションが生み出すアート空間 吉田 治英 株式会社 GK 京都相談役、京都精華大学客員教授 水川 耕児 京都市交通局高速鉄道部営業課営業推進係長
第5号	2014年10月15日発行	<ol style="list-style-type: none"> 巻頭言 京都橋大学のある場所—その歴史的景観— 細川 涼—本学学長、地域連携推進機構長、文学部教授 Management & Design 04 地域連携の拠点をめぐって 木下 達文/本学現代ビジネス学部教授、地域連携センター長 Interface 実践の知 第5回 琵琶の魅力を発信する四ノ宮 大田 雅之/本学地域連携センター リサーチ・アシスタント 京都モダンイズム建築を訪ねて 第15回 石川ハウス 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 Interview とともに 第5回 障がいのある人の社会復帰をサポートする、あたらしい事業のカタチ「一人で食べていける」と「仕事を楽しむ」をめざす 就労継続支援A型 山下 工人/株式会社クラウドナイン代表取締役
第4号	2014年3月20日発行	<ol style="list-style-type: none"> Interface 実践の知 第4回 京都マラソン 救護サポーターとして 北小屋 裕/本学現代ビジネス学部救急救命士専門講師 現代ビジネスフォーラム報告 あなたは誰に家を作ってもらいますか？ 松本 正富/本学現代ビジネス学部准教授 京都モダンイズム建築を訪ねて 第14回 国立京都国際会館 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 第2回橋セッション 山科区における子どもの日常生活を考える 林 敬子/「京都不登校の子を持つ親の会」世話人 金森 博美/京都市山科区役所福祉部支援課課長 田中 春/京都市山科区役所福祉部支援課課長補佐 石村 春菜/げん Kids ★応援隊代表、本学人間発達学部3回生 西村 拓馬/げん Kids ★応援隊副代表、本学人間発達学部3回生 兼田 光/げん Kids ★応援隊副代表、本学人間発達学部2回生 岡田 美穂/げん Kids ★応援隊会計、本学人間発達学部3回生 乃生 祐典/京都市子ども守り隊～守るんジャー～代表、本学人間発達学部3回生 川島 奈央/京都市子ども守り隊～守るんジャー～本学人間発達学部2回生 Interview とともに 第4回 町家で音楽とお酒と新しい出会いを楽しむ 木のぬくもり空間で、人がつどい、語り合い、夢を実現する 古川 学/ミュージックサロン YOSHIKAWA
第3号	2013年12月20日発行	<ol style="list-style-type: none"> Management & Design 03 大学の地域連携と地域公共人材への期待 金武 創/本学現代ビジネス学部准教授 Interface 実践の知 第3回 地域とつながる ところをつなぐ 心理臨床センター、始動。濱田 智崇/本学健康科学部助教 京都モダンイズム建築を訪ねて 第13回 北村邸 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 第1回橋セッション 地域と大学の連携—自治体との連携を考える— 野村 征理代/京都市山科区役所地域力推進室まちづくり推進課長 柏原 義親/京都市山科区役所地域力推進室広聴係長 山本 恵果/京都市山科区役所地域力推進室企画係長 佐藤 友一/京都市文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー 織田 直文/本学現代ビジネス学部教授 Interview とともに 第3回 地域資源の活用で、「住みたい!」と思える町を育てる クリーンエネルギーの源は“やっかいなもの”“捨てるもの”の中にある 日向 信二/若手県葛巻町 農林環境エネルギー課 環境エネルギー係主任
第2号	2013年3月20日発行	<ol style="list-style-type: none"> Management & Design 02 「バレーボール」 <「大学」 < 「地域」 小さな集団から大きな感動を与えられるために「情報発信基地」 藤田 幸光/本学女子バレーボール部監督 Interface 実践の知 第2回-I 地域貢献への第一歩として 救急救命研究会-TURF-の活動 夏目 美樹/本学現代ビジネス学部助教 Interface 実践の知 第2回-II 寺院とのコミュニティとの“つながり”を考える 地域密着型アートイベント「おてらハブ!」を通して 郷原 彩子/本学大学院文化政策学研究所博士前期課程2回生 京都モダンイズム建築を訪ねて 第12回 比叡山回転展望閣 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 現代ビジネスフォーラム報告 企業の社会的責任の理論と実践 阪本 崇/本学現代ビジネス学部准教授 Interview とともに 第2回 このまちが好き! その思いを育てるために「町たんけん」から「山科かるた」へ、地域の宝物を見つめる旅 朱 まり子/NPO 法人山科醍醐こどものひろば 山科かるたプロジェクト代表
第1号	2012年12月20日発行	<ol style="list-style-type: none"> 巻頭言 ごあいさつ 杉山 泰/本学現代ビジネス学部教授、地域政策・社会連携推進センター長 Management & Design 1 現代の地域政策を推進し、京都橋の文化的伝統を今に—まちづくりは、人づくりから— 池上 惇/京都橋大学名誉教授、元・京都橋大学大学院文化政策学研究所科長 Interface 実践の知 第1回-I 山科の子どものためのきずなを深める事業を推進する げん Kids ★応援隊 川田 奈穂/本学人間発達学部3回生 倉持 祐二/本学人間発達学部准教授 Interface 実践の知 第1回-II 清水焼の郷まつりにおける学生主体の来場者調査 岡本 哲弥/本学現代ビジネス学部准教授 京都モダンイズム建築を訪ねて 第11回 清六陶苑本社 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 Interview とともに 第1回 学生の発想×プロフェッショナルの技=新スイーツ「山科どうタルト」誕生! 若者と老舗のコラボレーションで、山科の魅力を発信する 亀丸 秀之/「スイス菓子ローズ」オーナー、オーストリアウィーン国家マイスター、ドイツ国家マイスター

「News Letter」バックナンバー 目次 (第40号～創刊号)

バックナンバー	発行日	目次
第40号	2012年3月1日発行	<ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 31 日本文化体験をビジネスとして 小川 美知/有限会社 ワックジャパン代表 Interface 文化政策との出会い 第12回 文化政策学あれこれ 碓井 敏正/本学現代ビジネス学部教授 京都モダンイズム建築を訪ねて 第10回 日本専売公社京都病院本館 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 Book Review 第11回『現代のエネルギー—環境政策—分権型福祉社会の文化的開発と環境制御』小林 俊和著 (見洋書房 2008年) 小森 治夫/本学現代ビジネス学部教授 [文化政策が担う地域公共政策] 松本 竹生 著 (徳島県教育印刷 2007年) 中谷 武雄/元・京都橋大学現代ビジネス学部教授 現代ビジネスフォーラム報告 地域連携の到達点と展望—大学はどこまで地域に貢献することが可能か 杉山 泰/本学現代ビジネス学部教授、文化政策研究センター所長 Interview 文化政策の風景 第34回 大学と地域の連携を振り返り、未来を展望する 座談会「京都橋大学と地域との連携事業に関する外部評価委員会」池上 惇/京都橋大学名誉教授 石黒 善治/京都市山科区長 小山 好弘/清水焼団地協同組合理事長 前・山科地域経済懇話会観光振興部会長 朱 まり子/前・NPO 法人 山科醍醐こどものひろば理事長 高田 昇/立命館大学政策科学部教授
第39号	2011年11月1日発行	<ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 30 チェコ映画に携わることで見えた社会活動支援 後藤 清子/株式会社 HiWaPlus Interface 文化政策との出会い 第11回 ソローキンとロシア、そしてコミ共和国 大野 道邦/本学現代ビジネス学部教授 京都モダンイズム建築を訪ねて 第9回 カトリック桂教会 河野 良平/本学現代ビジネス学部准教授 Book Review 第10回「成熟社会における人権、道徳、民主主義」碓井 敏正 著 (文理閣 2010年) 阪本 崇/本学現代ビジネス学部准教授 災害と文化政策 東日本大震災とミュージアム—初動時における遠隔支援について 木下 達文/本学現代ビジネス学部准教授 Interview 文化政策の風景 第33回「持続可能な社会」を築くのは、一人ひとりの市民の行動—太陽の輝きでエネルギーシフトをめざす 中村 和蔵/特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク、京都地域交流会世話人代表、京エコサポーター

第38号 2011年3月1日発行



1. Arts & Life 29 琵琶湖疏水の現代的な意義と課題について 辰巳 修二/京都市上下水道局水道部排水事務所所長
2. Interface 文化政策との出会い 第10回 CSR 指向ガバナンス論の源流をめぐって 江戸期の商人文化か、米国の近代組織論か 仲田 正機/本学現代ビジネス学部教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第8回 御蔵山の家 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
4. Book Review 第9回 『経済学は会話である科学哲学・レトリック・ポストモダン』アリオ・クラマー著、後藤 和子・中谷 武雄 監訳 (日本経済評論社 2010年) 南 里実/雑誌『上方芸能』編集部・編集委員、元・本学文化政策研究センターリサーチ・アシスタント
5. 文化政策研究センター10周年企画(後編) 文化によるまちづくりと文化政策 青木 圭介/本学現代ビジネス学部教授 活動の記録からみる文化政策研究センターの役割と歩み
6. 現代ビジネスフォーラム報告 京都を流れる疏水と地域の関わり 日高 昭子/本学文化政策研究センターリサーチ・アシスタント
7. Interview 文化政策の風景 第32回「本当に美味しいお酒」とともに、本物の「美味しさ」がわかる日本の「酒文化」を手渡したい 酒どころ伏見を、文化の香るまちにするために 松本 保博/松本酒造株式会社代表取締役社長

第37号 2010年10月1日発行



1. Arts & Life 28 「新しい公共」を担う地域公共人材の資格制度の創設 富野 暉一郎/地域公共人材開発機構専務理事、龍谷大学法学部教授
2. Interface 文化政策との出会い 第9回「めくるめく紙芝居」は山科産! -「アウトサイダーライブ」から目が離せない- 小暮 宣雄/本学現代ビジネス学部教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第7回 鶴巻邸 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
4. Book Review 第8回『渾心香』山北 一司 著(文芸社、2010年) 山北 一司 (自著紹介) 本学文化政策学研究科文化政策学専攻博士前期課程2回生
5. 文化政策研究センター10周年企画(前編) 文化政策研究センターの10年をふり返って 端 信行/兵庫県立歴史博物館 館長、元・京都大学文化政策学部(現代ビジネス学部) 教授
6. Interview 文化政策の風景 第31回 明治ロマンの道「琵琶湖疏水」を現代のくらしに活かしたい! -「疏水」のメッセージに耳を傾けながら- 中西 一彌/「琵琶湖疏水を語る部屋」主宰、「近代京都の礎を観る会」顧問

第36号 2010年3月20日発行



1. Arts & Life 27 滞在型観光地の形成について 笹森 秀樹/観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課長
2. Interface 文化政策との出会い 第8回 アメニティの授業 青木 圭介/本学現代ビジネス学部教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第6回 洛東アパート 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
4. Book Review 第7回『入門都市政策』真山 達志 監修(財団法人大学コンソーシアム京都 2009年) 阪本 崇/本学現代ビジネス学部准教授
5. 都市環境デザインフォーラム報告「市民にとってのまちづくりと京都らしい街並み景観整備のありかた」竹山 清明/本学現代ビジネス学部教授
6. Interview 文化政策の風景 第30回 市民の目線での、市民の誇りとなる「まつり」を! -酒蔵という空間から広がる、音楽と人のつながり 朝廣 佳子氏/株式会社読売奈良ライフ代表取締役兼編集長

第35号 2009年10月1日発行



1. Arts & Life 26 「アートNPOの現況と展望、その取り組み」樋口 貞幸/NPO法人アートNPO リンク事務局
2. Interface 文化政策との出会い 第7回 デジタル・アーカイブの視点 谷口 知司/本学現代ビジネス学部教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第5回 京都タワー(1964) 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
4. Book Review 第6回『文化の社会学-記憶・メディア・身体』大野 道邦・小川 伸彦 編著(文理閣 2009年) 中谷 武雄/本学現代ビジネス学部教授
5. 現代マネジメントフォーラム報告 「現代マネジメントの挑戦-21世紀のものづくりを考える-」近藤 文男/本学現代ビジネス学部教授
6. Interview 文化政策の風景 第29回「歌謡風月」でまちと人をつなごう! -酒蔵という空間から広がる、音楽と人のつながり 秋田 裕子/歌謡風月 実行委員会副会長

第34号 2009年3月20日発行



1. Arts & Life 25 商店街の「まちづくり」再考-山科の商店街の事例から 和田 応樹/京都市産業観光局商工部商業振興課
2. Interface 文化政策との出会い 第6回「キャラクターとまちづくり-彦根市と境港市の事例」織田 直文/本学現代ビジネス学部教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第4回 同志社大学アーモスト館ゲストハウス 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
4. Book Review 第5回『ひろがる日本のミュージアム-みんなが育て楽しむ文化の時代-』千地 万造・木下 達文 著(晃洋書房 2007年) 五十川 伸矢/本学現代ビジネス学部教授
5. 2008年度都市環境デザインフォーラム報告「京の宿 かつろぎのかたちとは・・・」今井 裕夫/本学現代ビジネス学部教授
6. Interview 文化政策の風景 第28回「伝統」を突き詰めたところからイノベーションは起こる-京和傘・日吉屋の挑戦西堀 耕太郎/(株)日吉屋 代表取締役
7. 報告 地域活性化フォーラム

第33号 2008年10月1日発行



1. Arts & Life 24 京都文化ベンチャーコンペティション 堀 裕子/京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会事務局(京都府文化環境部 文化芸術室)
2. Interface 文化政策との出会い 第5回 ミシュラン・Sushi・国際化-外食文化とグローバルイゼーション- 南 直人/本学文学部教授
3. 京都モダニズム建築を訪ねて 第3回 彌樂自動車株式会社本社 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
4. Book Review 第3回『びわ湖ホール オペラをつくる-創造し発信する劇場』上原 恵美(他) 著(新評論 2007年) びわ湖ホールの挑戦の記録 端 信行/兵庫県立歴史博物館 館長
5. 報告 公開研究会「びわ湖ホール問題が投げかけたもの-指定管理者と公共性」中村 美帆/東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻博士課程
6. 報告 文化経済学(日本) 関西支部 主催シンポジウム「21世紀の博物館と考古学-文化政策の視点から」[文化・芸術・歴史と自治体文化政策] 阪本 崇/本学現代ビジネス学部准教授
7. Interview 文化政策の風景 第27回 モノづくり&まちづくり そのキーワードは「協働」清水焼と山科のまちづくりをめぐる、さまざまなコラボレーションの試み 白谷 保夫/清水焼団地協同組合 理事・事務長

第32号 2008年3月31日発行



1. Arts & Life 23 ボーダレス・アートミュージアムNO-MAについて 山之内 洋/滋賀県社会福祉事業団 企画事業部
2. 京都モダニズム建築を訪ねて 第2回 京都都会館 河野 良平/本学現代ビジネス学部講師
3. Interface 文化政策との出会い 第4回 清水焼とマーケティングの邂逅 岡本 哲弥/本学現代ビジネス学部准教授
4. 現代マネジメントフォーラム報告 愛する人を救うために-救急救命士と市民救命のこれから-(2007年10月20日開催)
5. 都市環境デザインフォーラム報告

第31号 2007年10月1日発行



1. Arts & Life 22 伏見の名水と蔵元の想いが醸す純米酒「蒼空」藤岡 正章/藤岡酒造株式会社社長・五代目蔵元
2. 京都モダニズム建築を訪ねて 第1回 京都市交通局 壬生本庁舎 河野 良平/本学文化政策学部講師
3. Interface 文化政策との出会い 第3回 京都企業の文化的伝統と革新的適応 仲田 正機/本学文化政策学部教授
4. Book Review 第3回『まちづくりと景観』田村 明著(岩波新書 2005年)『景観』を再考する! 松原 隆一郎 荒山 正彦 佐藤 健二 若林 幹夫 安彦 一恵 著(青弓社 2004年) 木村裕/本学大学院文化政策学研究科博士後期課程、京都市都市計画局
5. 報告 日本文化政策学会設立総会 阪本 崇/本学文化政策学部准教授、日本文化政策学会理事
6. Information 2007年度京都大学現代マネジメントフォーラム 愛する人を救うために-救急救命士と市民救命のこれから- 2007年度京都大学都市環境デザインフォーラム 京都の文化観光振興と都市空間の未来
7. Interview 文化政策の風景 第26回「育成型クラブ」へ進化する決意 京都の人々に愛されるチームを目指して 梅本 徹/株式会社京都パーパルサンガ代表取締役社長

第30号 2007年3月31日発行



1. Arts & Life 21 伝統的空間のダイナミズム-大江能楽堂の挑戦 七世 大江 又三郎/能楽観世流職分
2. Interface 文化政策との出会い 第2回 忠臣蔵/メディア/山科 大野 道邦/本学文化政策学部教授
3. Book Review 第2回『日常からの文化社会学-私らしさの神話』河原和枝 著(世界思想社 2005年) 飯田 貴子/帝塚山学院大学 人間文化学部教授
4. 現代マネジメントフォーラム報告 メディアと社会と文化-テレビとインターネット-本学文化政策学部現代マネジメント学科主催(2006年12月2日開催)
5. イギリス観てある記 第9回 花咲く美しい庭を誇りにする国、イギリス 杉山 泰/本学文化政策学部教授
6. Interview 文化政策の風景 第25回「作法」を極めたモダンデザイナー-地域のため、人のために「僕」は何ができるのか? 辻村 久信/インテリアデザイナー

	<p>第 29 号 2006 年 10 月 1 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 20 まちの顧客は誰ですか？ 鶴田 哲也/三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 主任研究員 2. Interview 文化政策の風景 第 24 回 博物館の知的財産を人びとと共有するために - 指定管理者として新しい運営モデルの構築をめざす 竹内 有理/長崎歴史文化博物館 教育・研究グループリーダー 3. Interface 文化政策との出会い 第 1 回 静岡県立静岡がんセンターを訪問して 医療マネジメント研究会 4. Book Review 第 1 回 『文化によるまちづくりと文化経済』 端 信行・中谷 武雄 編 (晃洋書房 2006 年) 山崎 茂雄/福井県立大学大学院経済・経営学研究科助教授 5. イギリス観である記 第 8 回 「遊歩道」 (public footpath) のある国、イギリス 杉山 泰/本学文化政策学部教授 6. Information
	<p>第 28 号 2006 年 3 月 31 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 19 助け合い支援から新たなビジネスモデルを育てられるだろうか？ 石井 布紀子/有限会社コラボネットと取締役 2. Interview 文化政策の風景 第 23 回 湖北の魅力、長浜の地から発信する。そのツールは自然体でつくる地域情報誌『み〜なびわ湖から』編集長 3. イギリス観である記 第 7 回 ロビン・フッドが隠れ住む「森」が存在した国、イギリス 杉山 泰/本学文化政策学部教授
	<p>第 27 号 2006 年 1 月 31 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Interview 文化政策の風景 第 22 回 常滑は生活空間のたたずまいが美しいまち - 「常滑屋」は、まちの魅力を発見し、語り合い、発信する。伊藤 悦子/「常滑屋」代表 2. 文化政策プロフェッショナルセミナー 「文化によるまちづくりの継承と発展-文化政策の展開と産・公・民・学・際の協力体制」を開催 3. 京都橘大学 現代マネジメントフォーラム 「医療マネジメントの課題」を開催 4. 第 6 回 「個性が輝くひと・まち・文化」 コンテスト審査結果報告 5. イギリス観である記 第 6 回 天気予報士がタレントの国、イギリス 杉山 泰/本学文化政策学部教授
	<p>第 26 号 2005 年 10 月 1 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 18 “ええもん”を作るのは“ひと”とのつながりから - 澤 信三郎/一澤帆布代表取締役 2. Interview 文化政策の風景 第 21 回 まちの人びとに寄り添い、離陸する瞬間まで伴走する。まちづくりプロフェッショナルとして-内山 博史/七尾街づくりセンター株式会社 元気なお仕事塾 塾長 3. イギリス観である記 第 5 回 「国」のためではなく「国民」のためのナショナル・トラスト 杉山 泰/本学文化政策学部教授
	<p>第 25 号 2005 年 3 月 31 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 17 京都・西陣の町家で 人とアートと家のコラボレーション 吉田 幸代/西陣ファクトリー Garden マネージャー・大阪人間科学大学講師 2. Interview 文化政策の風景 第 20 回 京町家から、暮らしとコミュニティのあり方を考える 手のかかる家-だからこそ見えてくる「コミュニティとしての家族」 小島 富佐江/特定非営利活動法人 京町家再生研究会 理事・事務局長 3. 本学の取り組みが「第 2 回 法政大学地域政策研究賞 奨励賞」を受賞
	<p>第 24 号 2005 年 1 月 11 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Interview 文化政策の風景 第 19 回 回想法がお年寄りを元気にする。元気なお年寄りが町のコミュニケーションを豊かにする。回想法を使った地域ケアに取り組む「わが町の博物館」 梅本 充子/特定非営利活動法人シルバー総合研究所理事・愛知県勝町回想法センター 市橋 芳則/師勝町歴史民俗資料館学芸員 2. 第 5 回 「個性が輝くひと・まち・文化」 コンテスト審査結果報告 3. 「現代マネジメント学科」開設記念 現代マネジメントフォーラム 「企業の市場創造と社会貢献-現代マネジメントの使命-」を開催 4. 本学の取り組みが京都市の「大学地域連携モデル推進事業」の第 1 号に認定
	<p>第 23 号 2004 年 10 月 10 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 16 現代マネジメントってこういうことだったんだ 大歳 昌彦/株式会社生活文化研究所代表取締役・株式会社オンステージ代表取締役 2. Interview 文化政策の風景 第 18 回 農産物直売所「からり」には、つくる喜び、売る喜び、買う喜びがある 「女性と高齢者が元気なまち」は若者を惹きつける 野田 文子/株式会社内子フレッシュパーク「からり」取締役「からり特産物直売所」運営協議会会長 3. (レポート) ふるさと地域おこしにける女性起業家の夢 4. 文化政策プロフェッショナルセミナーを開催 5. イギリス観である記 第 4 回 温故知新の国、イギリス 古さと新しさが混在する国 杉山 泰/本学文化政策学部教授
	<p>第 22 号 2004 年 7 月 15 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 15 本物の地域の誇り (=光) が人を集める 田中 三文/株式会社 UFJ 総合研究所 名古屋本社・研究開発第 2 部 主任研究員 集客・観光プロジェクトリーダー 2. Interview 文化政策の風景 第 17 回 私を育てたのは北米の大学まちと小布施のまち 2 つのまちの共通点は、知的刺激、文化の集積、住民の誇り-私がやろうとしているのは、簡単なことではない。けれど、できない理由を探すより、たったひとつの可能性に懸けたい。セーラ・マリ・カミングス/株式会社樹-市村酒造場取締役・利酒師 3. イギリス観である記 第 3 回 過去の歴史を記録し、保存する国、イギリス 杉山 泰/本学文化政策学部教授
	<p>第 21 号 2004 年 3 月 31 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Education and Cultural Development 高大連携という文化政策 井口 貢/本学文化政策学部助教授 2. イギリス観である記 第 2 回 観光地における翻訳文化と自立精神 杉山 泰/本学文化政策学部教授
	<p>第 20 号 2004 年 1 月 31 日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Interview 文化政策の風景 第 16 回 「ビジター」から「ユーザー」へ 「観る側」から「創る側」へ 美術館は市民の自己表現の場でありたい。-人びとの意識に働きかけ、触発し自由な自己表現へと誘うものが現代美術 市川 照代/金沢 21 世紀美術館建設事務局・広報宣伝担当 2. 第 4 回 「個性が輝くひと・まち・文化」 コンテスト審査結果報告 3. 第 3 回文化政策学国際シンポジウム「文化における環境と福祉」を開催 4. イギリス観である記 第 1 回 (新連載) 杉山 泰/本学文化政策学部教授

	<p>第19号 2003年9月30日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 14 パブリックアートの行方 今井 祝雄さん/造形作家・成安造形大学教授 Interview 文化政策の風景 第15回 暮らしの空間をデザインするーそれはお客様や他の職種との苦しくもステキな共同作業ー 「やりがいのある仕事」は横索と葛藤のなかから見つかった 田邊 美和さん/建築インテリア設計「ARCH-4」主宰 都市の文化政策の理念とは 第8回 (最終回) 歴史的な再生のためのポロニャの教訓 松政 貞治/本学文化政策学部助教授
	<p>第18号 2003年6月30日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 13 ボランティアガイドと観光 鈴木 良秋さん/足助町観光協会事務局長 Interview 文化政策の風景 第14回 いきいき、のびのび、自由に暮らせるー。そんなまちこそ、魅力を放ち、人々を惹きつけるー まちも人も、固有の文化、固有の生き方を大切にしたい 深見 富紗子さん/蔵の中ギャラリー・蔵の中サロン代表 都市の文化政策の理念とは 第7回 フランクフルトの中世的幻影の「復元」 松政 貞治/本学文化政策学部助教授
	<p>第17号 2003年3月31日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 12 「町づくりと三方よし」 江竜 謙一氏/有限会社「居醒」代表取締役 Interview 文化政策の風景 第13回 「いま、市町村がおもしろい！ー安心して住み続けられる地域づくりは『住民参加』から始まる」 ゲスト：吉田 正子氏/米原町役場まちづくり課 課長 (2003年3月現在) 聞き手：井口 貢/本学助教授 文化政策のプロフェッショナルと研究者を養成する日本初の文化政策学大学院：博士前期・後期課程 (男女共学) 2003年4月同時開設 都市の文化政策の理念とは 第6回「ポルトガルの旅の途中に」 松政 貞治/本学助教授
	<p>第16号 2003年1月15日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Interview 文化政策の風景 第12回 「いつも『伝えること』に挑戦したいー人生の担い方、自分の生き方を、言葉といっしょに船出することーそれが詩」 ゲスト：上田 假奈代さん/詩人 聞き手：金武 創/本学助教授 第3回「個性が輝くひと・まち・文化」コンテスト審査結果報告 京都橘女子大学開学35周年記念・文化経済学会 (日本) 創立10周年記念 文化政策学国際シンポジウム「文化による創造的社会的形成」を開催 都市の文化政策の理念とは 第5回 「日本の「ハコモノ批判」に欠けている視点」 松政 貞治/本学助教授
	<p>第15号 2002年9月30日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Message from Professor David Throsby (Macquarie University, Australia) オーストラリア・マコーリー大学 デヴィッド・スロスビー教授からのメッセージ Interview 文化政策の風景 第11回 「文化政策学を究めたい人へー文化政策学をめぐる海外の事情、日本の事情」 ゲスト：河島 伸子さん/同志社大学経済学部助教授 聞き手：中谷 武雄/本学教授 「文化政策担当者のためのスキルアップ講座」を終えて 小暮 宣雄/本学助教授
	<p>第14号 2002年6月28日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 11 「寄付をしないということ」 樽見 弘紀/北海学園大学法学部助教授 Interview 文化政策の風景 第10回：滋賀県 まちに暮らす人びとの「できること」と「してほしいこと」を結びツール ー地域通貨ー助け合って暮らす、持続可能な地域社会の創造へ！いま、市民の挑戦が始まったー ゲスト：金澤 恵美さん/NPO法人地域通貨おうち委員会 代表 聞き手：阪本 崇/本学講師 都市の文化政策の理念とは (4) 「フランスの文化政策における建築家の役割」 松政 貞治/本学助教授
	<p>第13号 2002年3月29日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> message 「『文化政策の学び』に期待」 青柳 潤一/ジャーナリスト 「21世紀の生活は文化が基本」 佐藤 友美子/サントリー不易流行研究所 部長 「激動の南アフリカで、芸術を支える女性たち」 熊倉 純子/ (社) 企業メセナ協議会シニア・プログラム・ディレクター 共に学ぶー文化政策学部教授陣からのメッセージー
	<p>第12号 2002年1月29日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 所長鼎談 子どもたちは豊かな文化の種 (シーズ) 多様な「参加」のかたちがその土壌ー提案・提言の審査を振り返って 佐藤 友美子/サントリー不易流行研究所 部長 音田 昌子/読売新聞大阪本社編集委員 端 信行/文化政策研究センター所長・文化政策学部教授 第2回「個性が輝くひと・まち・文化」コンテスト審査結果 京都橘女子大学文化政策学部開設記念・文化政策学国際シンポジウム 「文化による創造的地域づくり」を開催 都市の文化政策の理念とは (3) 「パリの国家プロジェクトの文化戦略・その2」 松政 貞治/本学文化政策学部助教授
	<p>第11号 2001年9月24日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 10 「アートマネジメント教育への期待と課題」 美山 良夫/慶應義塾大学教授 Interview 文化政策の風景 第9回：岡山県 「ワクワク、ドキドキ」すてきな博物館体験をあなたにーエドゥケーターは来館者に一番近い博物館員ー」 ゲスト：井島 真知さん/林原自然科学博物館・展示普及部エドゥケーター 聞き手：木下 達文/本学講師 都市の文化政策の理念とは (2) 「パリの国家プロジェクトの文化政策・その1」 松政 貞治/本学文化政策学部助教授
	<p>第10号 2001年6月8日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> Arts & Life 9 「問われる市民の力量」 吉島 隆子/みえ市民活動ボランティアセンター運営委員会代表世話人 Interview 文化政策の風景 第8回：三重県・愛知県 市民活動を支え、しなやかに夢を追う。ー「NPO支援」の場でもー 松本 美穂さん/コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」常務理事・事務局長市民フォーラム21・NPOセンター事務局主査 第1回「個性が輝くひと・まち・文化」コンテスト一般部門優秀賞論文 都市の文化政策の理念とは (1) 「パリの文化は住宅に始まり住宅に終わる」 松政 貞治/本学文化政策学部助教授

	<p>第9号 2001年3月9日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 8 「文化政策研究センターへの期待-大学シンクタンクとしての役割」 青山 公三/ニューヨーク大学行政研究所 上席研究員 2. 対談 「アートを通してコミュニティの復活・再生を-地域の人のびとの伴走者として」 ゲスト:橋本 敏子さん/ (株) 生活環境文化研究所代表取締役・所長 聞き手: 端 信行/文化政策研究センター所長・文化政策学部教授 3. 第1回「個性が輝くひと・まち・文化」コンテスト審査結果 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (8) アダム・スミス (1723～1790) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information キャンパスプラザ京都 大学公開講座案内 「21世紀の豊かさを問う-文化政策がめざすもの-」
	<p>第8号 2001年1月10日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「新しい文化政策学部の志とその実現に向けて-設置認可を受けて心すること」 大南 正瑛/京都橘女子大学学長 2. 学部長対談「時代が求めるのは、人を輝かせる「文化」-いま、女性に「文化」という仕事を」 池上 惇 (文化政策学部・学部長) 田端 泰子 (文学部・学部長) 3. Message 1 「文化政策学部への期待」 萩原 誠司/岡山市長 4. Message 2 「心の時代の文化政策学部に大きな期待」 長縄 友明/松下電器産業株式会社 社会文化部長 5. Arts & Life 7 「文化政策の必要性」 上原 恵美/財団法人びわ湖ホール副理事長・滋賀県立芸術劇場・びわ湖ホール副館長 6. Information 丸善ライブラリー 「文化政策入門-文化の風が社会を変える」 1月15日刊行!
	<p>第7号 2000年10月6日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 6 「美術館はアートによって開放される」 立木 祥一郎/青森県美術館整備・芸術パーク構想推進室学芸主査 2. Interview 文化政策の風景 第7回:青森県「地域文化の担い手を見つめ、励まし、つなぐ-地方紙記者として-」 ゲスト:小畑 智恵さん/東奥日報社五所川原支局記者 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「地域文化の情報発信」 金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (7) アルヴィン・トフラー (1928～) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information 京都橘女子大学 第1回「個性が輝くひと・まち・文化」コンテスト
	<p>第6号 2000年5月30日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 5 「芸術性豊かな創造・交流都市」を目指して~まちづくりは、人づくりから~ 尾島 邦彦/愛知県瀬戸市役所職員課主事 2. Interview 文化政策の風景 第6回:愛知県 いま、「公務員」に開眼!-自治体職員の可能性に挑む- ゲスト:増田 順子さん/瀬戸市役所高齢者福祉課主事 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「お役所の自己投資 職員の長期研修制度を考える」 金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (6) ティボール・シトフスキー (1910～) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information 「文化政策公開シンポジウム文化政策は社会を変える-新しい時代の企業・市民・大学の役割」
	<p>第5号 2000年4月24日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 4 「人と人をつなぐ酒~地域おこしと酒造業のかかわり~」 片山 千重紀/元 TaKaRa 酒生活文化研究所研究員 2. Interview 文化政策の風景 第5回:石川県 人と酒の出会いを求めて-伝統のまちから地酒の魅力を発信する」 ゲスト:坂本 弥生さん/株式会社 福光屋営業本部、きき酒師 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「経済のグローバル化と地酒ブーム 文化の経済を考える」 金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (5) ジョン・ラスキン (1819～1900) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information 官民協働時代のシンボル「アートボード高知」
	<p>第4号 2000年3月24日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 3 「全米芸術基金はどこへ向かう? -<国策>の一環としての芸術援助」 塩谷 陽子/芸術文化事業研究者 2. Interview 文化政策の風景 第4回:高知県 「アートマネジメントの可能性を拡げてみたい 来館者との新しい接点をめざして」 ゲスト:河村 真美さん/ (財) 高知県文化財団企画課 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「公立文化施設に行政評価の視点を」 金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (4) ジョン・M・ケインズ (1883～1946) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information 「私立秋野不矩美術館」の紹介
	<p>第3号 2000年2月24日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 2 「私たちの価値観を揺さぶるNPO」 高原 稔/ (社) 地域問題研究所企画部長 2. Interview 文化政策の風景 第3回:京都市 「めざすは持続可能な協働的社会 使うはインターネット」 ゲスト:浅野 令子さん/日本サステナブル・コミュニティ・センター事務局長 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「行政に期待されるNPO支援策」 金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (3) ジョン・K・ガルブレイス (1908～) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information 産・官・学の研究交流拠点をめざす-建設中の文化政策学部棟に研究交流スペースとリエゾン・オフィスを設置-
	<p>第2号 2000年1月24日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Arts & Life 1 「芸術と生活の十字路づくり~アーツマネジメントを巡って~」 小暮 宣雄/全国市町村国際文化研究所参与 2. Interview 文化政策の風景 第2回:滋賀県 「舞台芸術の創造をなかだちに、人びとの出会いと交流の場を」 ゲスト:中村 七恵さん/栗東芸術文化会館* さくら*アシスタントプロデューサー 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「地域に根ざした文化ホールの可能性」 金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (2) アマルティア・セン (1933～) 阪本 崇 (京都橘女子大学非常勤講師) 5. Information Information コーナーへのご協力をお願い
	<p>創刊号 1999年12月24日発行</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ごあいさつ 「文化政策研究センター発足にあたって」 門脇 禎二/京都橘女子大学学長 2. Interview 文化政策の風景 第1回:岐阜県 「古川やんちゃ」の精神でまちおこしを-町のサイズにあわせた観光戦略-」 ゲスト:岩村 多香さん/古川町観光協会事務局 聞き手:金武 創/文化政策研究センター開設準備委員 3. 解説「交通インフラと観光」/金武 創 4. Profile 文化政策研究学を創った人々 (1) ウィリアム J. ボーモル (1922～) 阪本 崇/京都橘女子大学非常勤講師 5. Information 本格的な研究交流機能を備えた「文化政策学部棟」の建設に着工

2014 京都橘大学地域連携実績集(1994 年度～ 2014 年度)

発行日 2015 年 3 月 31 日

発行 京都橘大学 地域連携推進機構 地域連携センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

TEL : 075-574-4342 FAX : 075-574-4149

URL : <http://www.tachibana-u.ac.jp>

E-mail : occ@tachibana-u.ac.jp



育ちあう、響きあう

京都橘大学